

14. 24-761



1200501162469

24

761

廣島縣水産試験場要覽

昭和八年刊



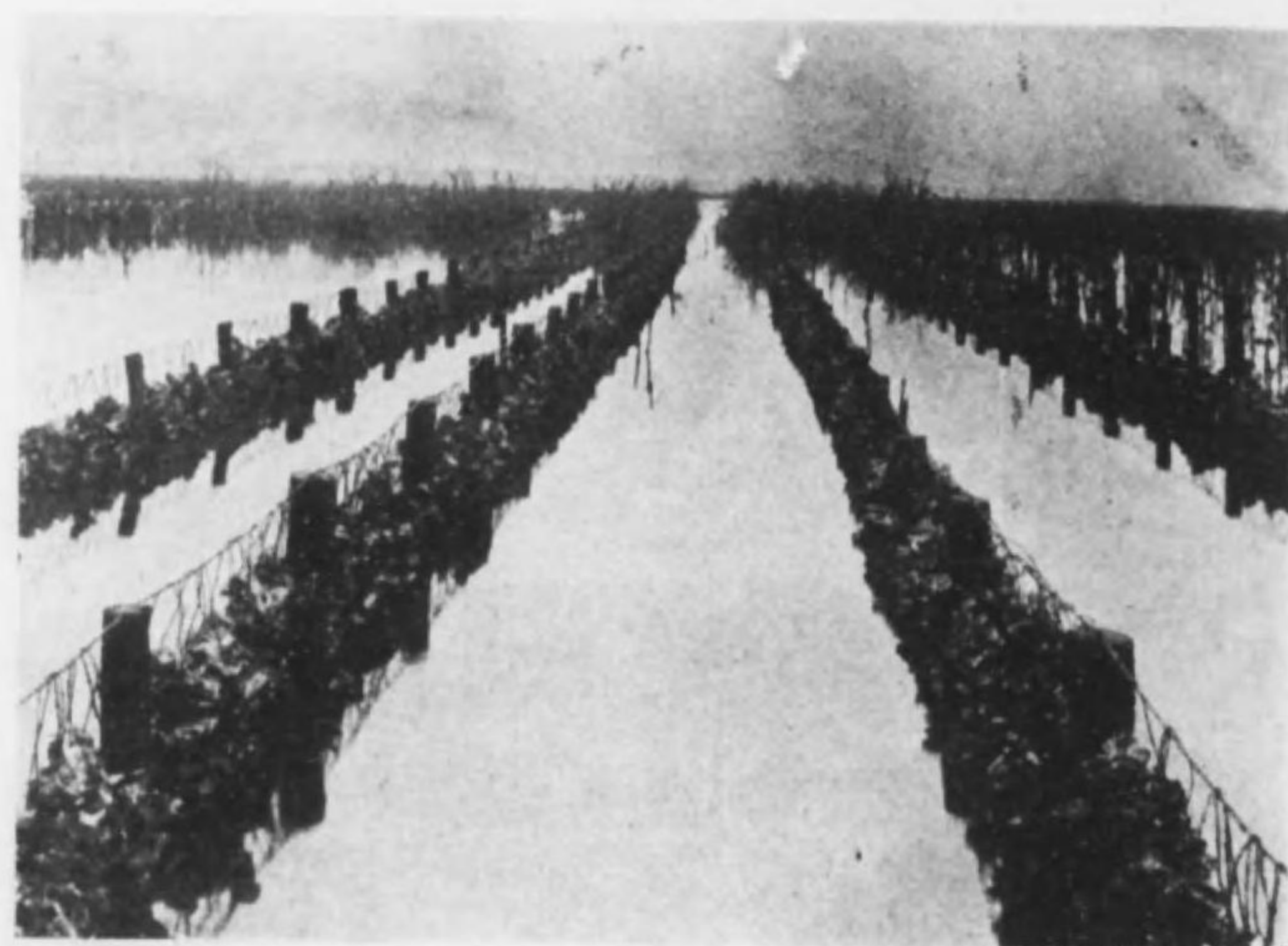
始



廣島縣水產試驗場要覽



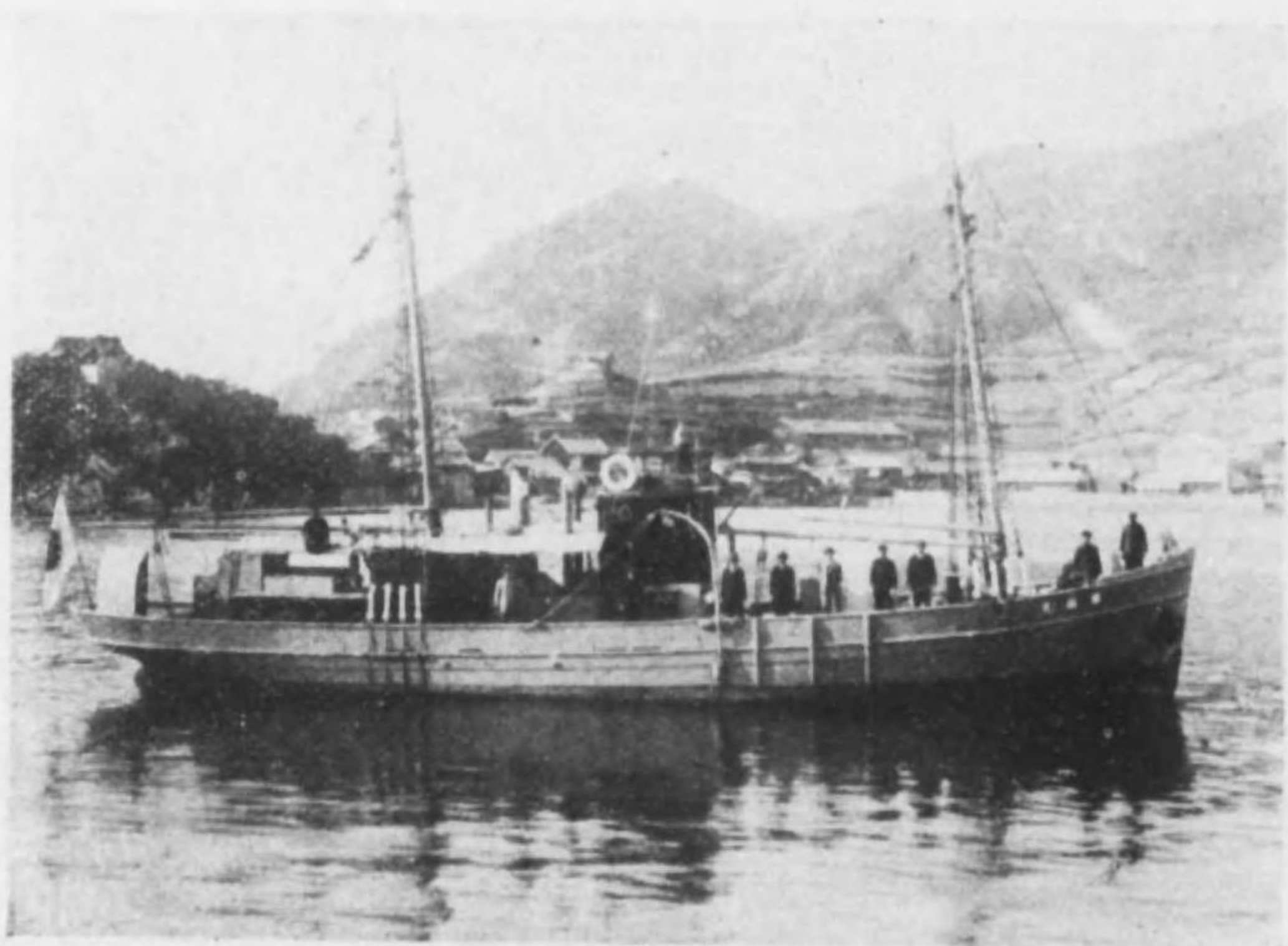
草津支場



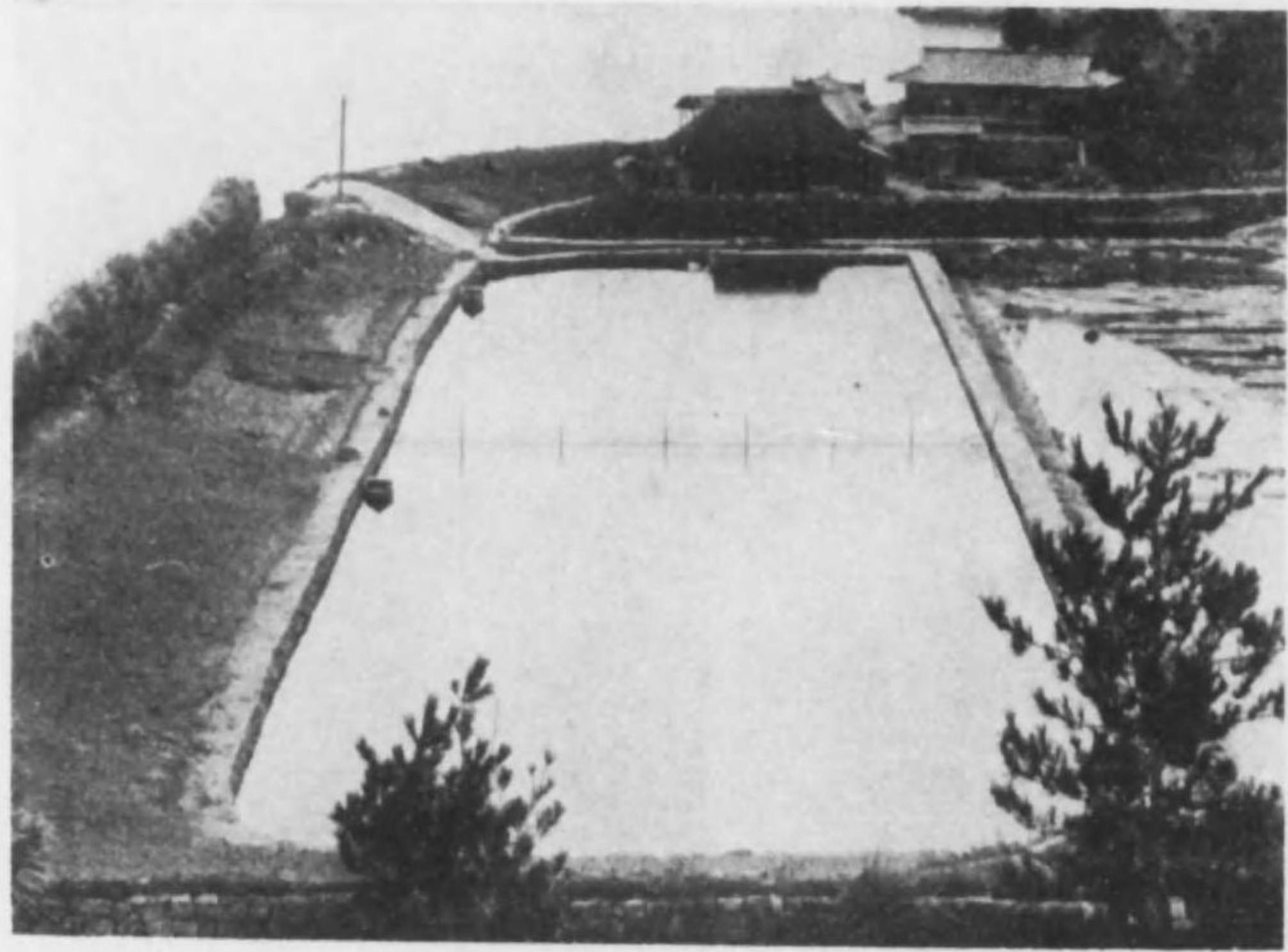
養蠶試驗地



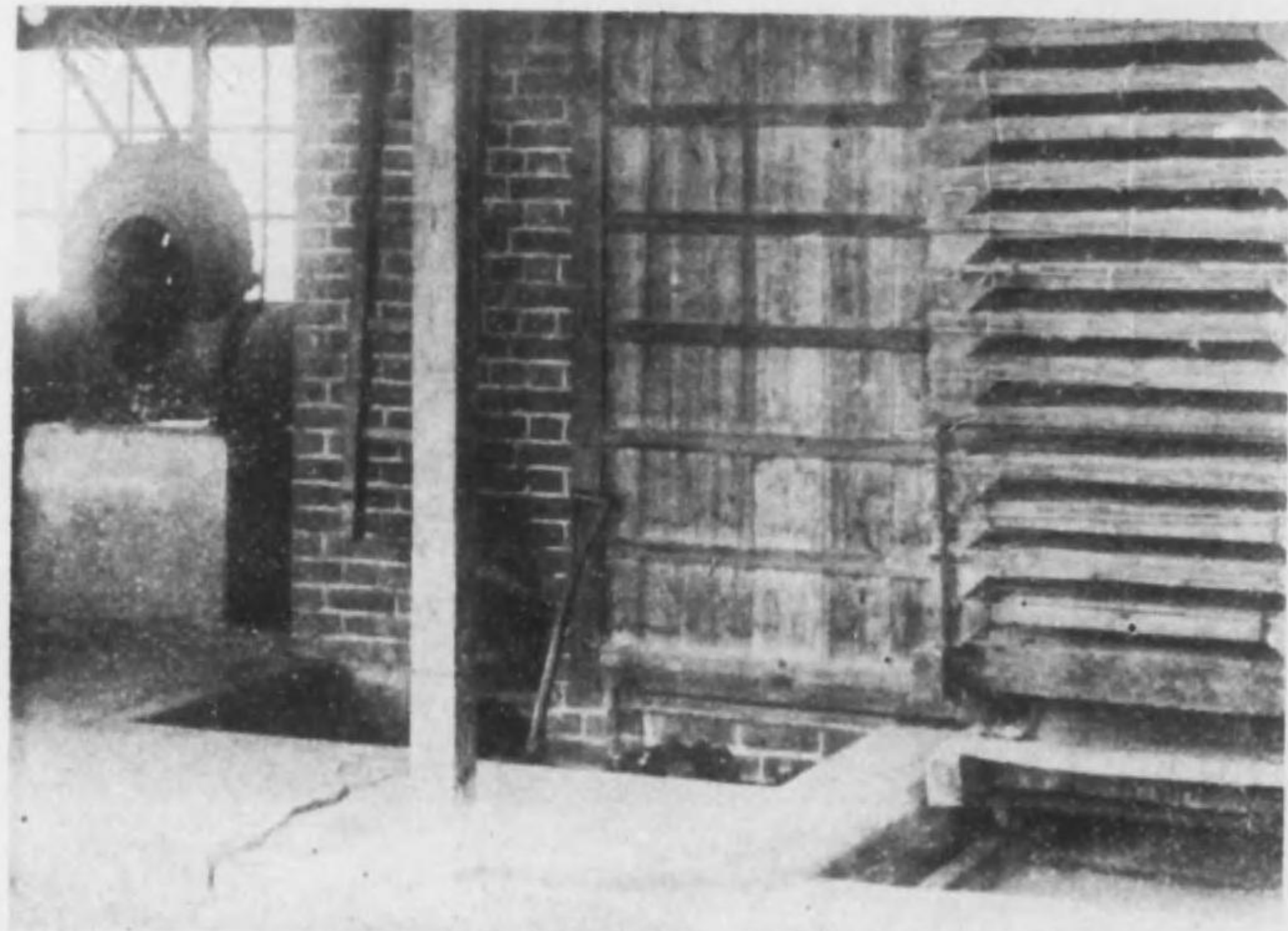
稱支場



漁業指導船銀岡丸



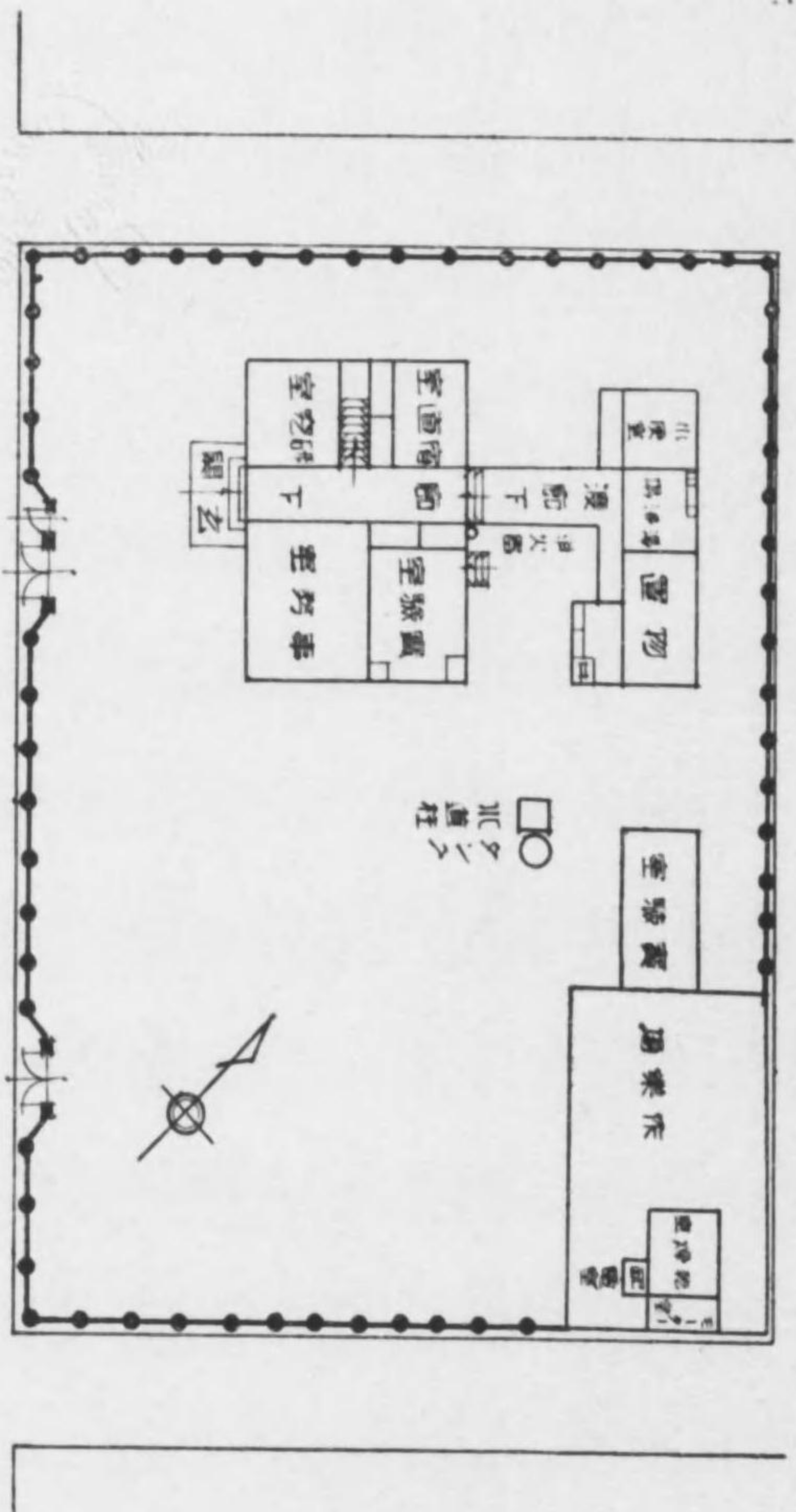
場魚養水鹹野中



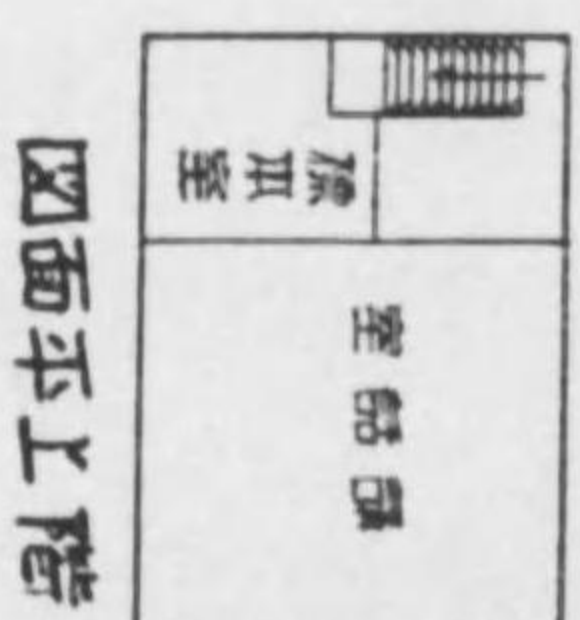
室機燥乾



草津支平場平面圖



海



階上平面圖





## 緒言

本場ハ大正十一年四月一日ノ創立ニシテ、爾來年ヲ閱スルコト十二星霜ナリ、而シテ余ハ大正十二年七月本場ニ來任シ、翌年七月ヨリ本場ノ施設經營ヲ擔當スベキ重任ヲ帶ビ、潛心焦慮日夜孤々トシテ斯業ノ興隆ニ關シ多少計劃セシ所アリシモ、幾多ノ蹉跌ニ遭遇シテ測ラズ失敗ニ歸セシモノモアリタリ、是レ素ヨリ菲才淺學ノ招ク所ナリト慚愧ニ堪ヘズ、然レドモ徐ロニ既往ノ期間ニ於ケル斯業興廢、經營ノ舉否ノ狀況ヲ追想スル時、同僚諸士ノ熱誠ナル努力ノ援助ト、上下有志ノ懇切ナル獎勵庇護トハ斯業ノ改善振興ニ寄與シタルモノ鮮ナカラズ、爲メニ本場ノ成績ヲシテ多少觀ルベキモノアラシメタルハ余ノ私ニ幸甚トシテ誇トスル所ナリ。翻テ本縣水産業ノ現勢ヲ察スルニ、本縣沿海部ハ四市七郡九十八ヶ町村ニ涉リ、海岸線ノ延長二百四十七里ニ及ビ、又内陸部ハ幾多ノ河川池沼ヲ有シテ其ノ天賦ノ地勢ハ魚鹽ノ利ヲ豊富ニセリ、斯ノ如キ天惠多キ本縣水産界モ輒近内外經濟界未曾有ノ不況時ニ際會シ、漁村ノ疲弊困憊ハ今ヤ甚シキモノアリ、依テ念フ之ガ根本的救済ノ方策トシテ、内海及遠洋漁業ノ刷新、漁獲物化製ノ改善、淺海及内水面利用増殖業ノ振興ヲ圖ルハ現下緊急ノ要務タラズンヤ。從ツテ之ガ試驗研究並指導等ノ如キ附隨ノ事項モ當然多キヲ加フルヲ以テ、本場前途ノ業務ハ洵ニ多端ナリト謂フベシ。此ニ於テ本場創立以來施設經營ノ顛末梗概ヲ輯録シ、更ニ本縣水産業ノ推移變遷ノ狀況ヲモ附記シテ、今後本場施設經營ノ參考ニ資シ、併セテ富業者諸士ノ參考資料ニ供セバ庶幾クハ斯業發展上ニ於ケル指針ノ便宜トモナリ得ベキカト思料セリ、是レ本書ヲ上梓セシ所以ナリ、乃チ之ヲ卷頭ノ辭トス。

昭和八年十二月

14-561  
21  
14.25-76

### 廣島縣水産試験場要覽目次

一、設立ノ趣旨並沿革	一頁
二、設備	四頁
(一)敷地及建物	四頁
(二)試験調査船	五頁
(三)主ナル試験調査設備	七頁
三、處務規程	七頁
四、職員	九頁
(一)創立以來ノ職員	九頁
(二)現在職員	一一頁
五、經費	一二頁
(一)創立以來ノ經費決算額	一二頁
(二)昭和八年度業務別豫算	一三頁
六、業務	一五頁
(一)創立以來施行セル業務ノ概要	一五頁
1. 漁撈部	一六頁
2. 製造部	二〇頁
3. 養殖部	二三頁
4. 水産増殖事業	三一頁
5. 講習講話	三二頁

廣島縣水産試験場要覽目次

一、設立ノ趣旨並沿革

二、設備

三、處務規程

四、職員

五、經費

六、業務

廣島縣水産試験場

附 錄  
廣島縣水産業ノ概要

一、概 説.....三七頁

二、漁 業.....四一頁

    (一) 沿岸漁業.....四一頁

    (二) 遠洋漁業.....四五頁

    (三) 河川漁業.....四七頁

三、水産養殖業.....四九頁

四、水産製造業.....五二頁

五、製 鹽 業.....五三頁

六、水産業ニ對ス獎勵補助ノ施設.....五四頁

七、水産關係團體.....五五頁

    (一) 廣島縣水産會並郡市水産會.....五五頁

    (二) 廣島縣漁業組合聯合會.....五八頁

    (三) 漁 業 組 合.....五九頁

    (四) 廣島鱈網漁業組合.....六一頁

    (五) 廣島縣養蠶水産組合.....六二頁

    (六) 廣島海苔水産組合.....六三頁

八、水産物ノ販賣機關.....六三頁

一、設立ノ趣旨及沿革

本縣ハ其ノ位置山陽ノ中樞ヲ占メ、南ニ備後灘、安藝灘及廣島灣ヲ控ヘ、縣下四市十六郡中海ニ臨メルモノ四市七郡九十八ヶ町村ニシテ、海岸線ノ延長實ニ二百四十七里ニ及ベリ。沿岸ハ概ネ人口稠密、土地肥沃ニシテ、河川ハ自ラ多量ノ榮養分ヲ含有シテ流下シ、餌料的微生物ヲ蕃殖ヲ助クルノミナラズ、海水ノ溫度及比重ヲ適度ニ調節シテ各種水族ノ發生成育ニ適シ、全ク天然蕃殖場タルノ感アリテ、内海米族ハ到ル所ニ豐富ナリ、加之ナラズ紀伊、豊後水道ヨリ産卵及索餌ノ爲メ外海魚ノ廻遊シ來ルモノ亦頗ル多シ。由來本縣沿岸ハ一般ニ遠淺ニシテ淺海及干潟ニ富ミ、牡蠣、海苔及其ノ他ノ貝藻類ノ蕃殖ニ適スル場所到ル所ニ存在セリ。又内陸部ハ數多ク河川縱横ニ貫流シ、池沼、溜池及湖溜等各所ニ散在シテ養殖上ニ利用シ得ベキ場所極メテ多キヲ以テ、水産業ヲ營ムニハ實ニ天與ノ恩惠ヲ得タル勝地ナリト云フベシ。故ニ本縣沿岸ニ於ケル漁業ハ往古ヨリ發達シ、廣島灣ニ於ケル牡蠣、海苔ノ養殖業ノ如キハ三百數十年前ヨリ創業セラレテ、本邦ニ於ケル斯業ノ先鞭ヲ付ケタル史實アリ。爾後累年發達シツ、アリト雖、他ノ各種産業ガ急速ナル進歩、發展ヲ遂ゲタルニ對比セバ、斯業ハ尙遲々トシテ振ハザルノ情勢ニアルヲ以テ、本縣ニ於テハ之ガ改良發達ヲ圖ル目的ヲ以テ、明治三十三年四月水産試驗場ヲ設立シ、其ノ事務所ヲ縣廳内ニ置キテ業務ヲ開始シ、三十五年御調郡三原町ニ事務所ヲ移轉シ、専ラ之ニ關スル試驗調査並講習講話及實地指導ヲ行ヒ、相當ノ業績ヲ擧ゲツ、アリシニ拘ハラズ、其ノ効果良好ナラザルトノ理由ニ依リ四十二年三月一旦之ヲ廢止シ、水産改良費ノ名目ニテ技術員ヲ商工課ニ置キ、斯業ノ指導獎勵ニ從ヒシガ、時代ノ進運ト本縣斯業ノ現況トハ水産試驗場ヲ再興スルノ必要ニ迫ラレ、大正十年度通常縣會ニ之ガ設立ノ經費ヲ提案シ其ノ協賛ヲ經テ、翌十一年四月縣廳内ニ本場ヲ再設シ其ノ業務ヲ開始シタリ、而シテ之ガ試驗調査並指導獎勵ノ徹底ヲ期スル爲適地ヲ調査シタリシニ、本縣ノ地勢及海況ハ漁撈、製造及養殖ニ關スル試驗調査等各特異ナル設備ヲ一ヶ所ニ併置スルハ困難ナル事情アリシヲ以テ、先ヅ十二年度ニ沼隈郡柄町及佐伯郡草津町(現在ハ廣島市草津町)ノ兩所ニ支場ヲ設置シ、兩支場ニテハ漁撈及製造ニ關スル業務ヲ、草津支場ニテハ養殖ニ關スル業務ヲ開始シタリ、爾來漁撈、製造及養殖ニ關スル諸般ノ試驗調査ヲ遂行シ、其ノ業績ヲ以テ當業者ノ指導ニ當リ、更ニ講習講話ニ依リテ本縣水産業ノ改良發達ニ努力シツ、以テ現時ニ到レリ。

本場再設以來今日ニ至ル間ニ於ケル重要事項ヲ摘録セバ左ノ如シ。

大正十一年、三月二十七日付農商務省指命水第五八八號ヲ以テ農商務大臣ヨリ本場設立ノ件認可セララル。

三月三十一日告示第四百十三號ヲ以テ廣島縣水産試驗場ヲ廣島縣廳内ニ設置シ、四月一日ヨリ事務ヲ開始スル旨告示セララル。

三月三十一日訓令第十四號ヲ以テ本場處務規程ヲ制定シ、四月一日ヨリ施行スル旨訓令セララル。

三月三十一日、場長以下職員ノ任命アリ、四月一日ヨリ事務ヲ開始ス。

四月一日、從來縣ノ所屬タリシ漁業指導船廣島丸(一五噸、二〇馬力)ヲ本場ニ保管轉換ノ認可ヲ受ク。

八月一日、淺海干潟ニ於ケル試驗調査用ノ小型調査船ヲ建造ス。

大正十二年、十一月二十八日、廣島市草津町庚午新開地先ニ面積三、〇〇〇坪ノ海苔養殖試驗地ヲ設定ス。

草津、輛支場ノ建築工事ハ七月ニ着手シ、十一月下旬ニ至リ竣工セルヲ以テ、十一月三十日告示第六四一號ヲ以テ同日ヨリ左ノ通本縣水産試驗場支場ヲ設置スル旨告示セララル。

名 稱 位 置

廣島縣水産試驗場草津支場 佐伯郡草津町

廣島縣水産試驗場輛支場 沼隈郡輛町

輛支場ノ設置ニ伴ヒ養殖擔任ノ技術員ハ草津支場ニ、漁撈、製造擔任ノ技術員及漁業指導船廣島丸船長以下乗組員ハ輛支場ニ在勤ヲ命ゼラル。

尙輛支場ノ設置ニ當リ、輛町ヨリハ敷地六〇〇坪ト建築費ニ對シ九、〇〇〇圓、草津町ヨリハ敷地二二一坪、佐伯郡水産會ヨリハ建築費ニ對シ一、〇〇〇圓ノ寄附ヲ受ケタルコトヲ附記シテ感謝ノ意ヲ表ス。

十二月二十日、市郡連帶勸業費、水産改良費備品中ヨリ試驗調査用器具並水産關係圖書百十四點ヲ本場ニ保管轉換ノ認可ヲ受ク。

大正十三年、九月、輛支場ニ於テ起工中ナリシ熱風吹込式魚類乾燥設備竣工ス。

大正十四年、五月二十一日、輛支場ニ小型調査船廣島丸(和船型、長三〇尺、幅六尺、深二尺ニシテ無點火式石油發動機ヲ据

付ケタルモノ)ヲ建造ス。

大正十五年、十月十九日、廣島市江波町地先ニ面積二、八二九坪ニ合ノ海苔養殖試驗地ヲ設定ス。

七月二十六日、佐伯郡嚴島町宇米ヶ窪地先ニ面積三〇〇坪ノ垂下式牡蠣養殖試驗地ヲ設定ス。

十一月九日、本場漁業試驗船トシテ銀鷗丸ヲ陸軍運輸部ヨリ借入ノ契約ヲ締結シ、以後毎年借入契約ヲ更新シ今日ニ至ル。

昭和二年、一月十三日、本縣海苔業組合ニ於テ草津支場ニ松井式電熱利用生海苔乾燥室ヲ設置ス。

昭和三年、十二月十三日、豊田郡中野村宇向山地先ニ面積三〇〇坪ノ垂下式牡蠣養殖試驗地ヲ設定ス。

昭和四年、四月十七日、本場漁業指導船廣島丸ヲ廢船トシテ賣却ス。

昭和五年、一月二十日、内海漁業指導船トシテ廣島丸(西洋型、木造帆船ニシテ總噸數七噸七、無水石油發動機關八馬力ヲ据付ケタルモノ)ヲ建造ス。

十月二十四、二十五ノ兩日 今上陛下、安藝郡江田島村海軍兵學校ニ行幸アラセラレタル際、本場ニ於テ調査研究セル釣漁用餌虫類標本ノ天覽ヲ賜ハリ、且場長ハ畏クモ天顏ニ咫尺シ奉リテ、右標本ニ付御説明並御下問ニ奉答スルノ無上ノ光榮ニ浴シタリ。

昭和六年、十一月、岡山及廣島縣下ニ於テ舉行セラレタル陸軍特別大演習御統監ノ爲、全月十四日 今上陛下、福山市ニ行幸アラセラレタル際、本場ニテ養成セシ牡蠣ヲ本縣知事ヨリ献上セシニ御嘉納ヲ賜ハルノ光榮ニ浴シタリ。

八月十七日、漁業調査試驗ノ爲朝鮮海ニ出動中全羅南道濟州島西歸浦港ニ於テ暴風雨ノ爲廣島丸及銀鷗丸附屬ボート一艘難破ス。

十一月、輛支場ニ開口一三尺、奥行六尺ノ乾燥室ニ六尺四方ノ焚場ヲ附屬セシメタル自然通風式小型簡易乾燥室ヲ設置ス。

昭和七年、四月二十七日、輛支場ニ廣島丸ノ代船(和船型、長三三三尺二、幅七尺三五、深三尺五ニシテ無注水式石油發動機八馬力ヲ据付ケタルモノ)ヲ建造ス。

八月六日、佐伯郡五日市宇大新開地先ニ面積一、五〇〇坪ノ米國輸出向種牡蠣養成試驗地ヲ設定ス。

十一月十日、訓商第六九六〇號ヲ以テ昭和七年度水産増殖事業費豫算トシテ壹萬四千參百八拾八圓令達セララル。  
 昭和八年、一月十三日、草津支場ニ調査船（和洋折衷型、長二八尺、幅五尺五、深一尺八ニシテ電氣着火式石油發動機六馬力ヲ据付ケタルモノ）ヲ建造ス。  
 三月三十一日、訓商第三〇〇四號ヲ以テ昭和八年度水産増殖事業費豫算トシテ壹萬四百九圓令達セララル。  
 三月三十日、輛支場ニ「セミトロシューマー」及「アンカーバンドフロージングマシン」ヲ設備ス。

一、敷地及建物

本場ハ縣廳内ニアリテ敷地及建物ヲ有セザルモ輛及草津支場並中野鹹水養魚場ノ敷地及建物ハ左ノ如シ。

二、設備

敷地面積		建築工費	
六〇〇坪	建物總坪數	一七、三〇一圓七五	乾燥室内ノ設備及作業場ヲ含マス
九九坪四五		本館	本館二階建洋館 建坪 二八坪五 階下事務室(七坪五) 研究室(六坪) 應接室(三坪六六) 宿直室(三坪五) 階上講話室(一八坪) 標本室(四坪六五)
		本館附屬舍	本造平家建 建坪 一四坪二五 小使室(三坪) 湯沸場(三坪二五) 物置(三坪七五) 便所(七合五)
		漁具製造室	本造平家建 建坪 一五坪
		乾燥室	熱風吹込式魚類乾燥室(本造平家建 建坪 一五坪) 自然通風式簡易乾燥室(同 三坪二)
		調理室	本造平家建 建坪 二五坪五
		作業場	面積八坪(乾燥室ニ接続シテ屋外ニ亞鉛板葺ノ屋根ヲ設ク)

二、試験調査船

草津支場		中野鹹水養魚場	
敷地面積	三〇〇坪	建物總坪數	四七坪二五
建築工費	一〇、九七二圓五八	乾燥室	電熱利用生海苔乾燥室(間口七尺、奥行九尺、一坪ノモーター室附屬)
本館	本造二階建洋館 建坪 二八坪五 階下事務室(七坪五) 實驗室(六坪) 研究室(三坪六六) 宿直室(三坪五) 階上講話室(一八坪) 標本室(四坪六五)	飼育池	水面積 四二〇坪(一面) 本造平家建 建坪 一三坪七五
本館附屬舍	本造平家建 建坪 一四坪二五 小使室(三坪) 湯沸場(三坪二五) 物置(三坪七五) 便所(七合五)	事務室兼宿直室	本造平家建 建坪 四坪五 同 四坪五 本設備ハ試験期間中民間ヨリ無償貸與ヲ受ク
作業室	面積二九坪五(屋外ニ亞鉛板葺ノ屋根ヲ設ク)		
實驗室	本造平家建 建坪 四坪五		
船型及船種	二橋ケツチ型木造帆船		
重要寸法	長 七一呎七一、 幅 一七呎二五、 深 七呎二一		
總噸數	五四噸八八		
機關ノ種類	新潟鐵工所製ディーゼル機關純一〇〇馬力		
速力	八節		
建造年月	大正十一年十一月ノ建造ニシテ大正十五年十月陸軍運輸部ヨリ借入タルモノナリ		
屬所場支輛			



- 三、水産ニ關スル質疑應答
- 四、魚兒介苗等ノ配付
- 五、水産製品其ノ他ノ分析及ビ鑑定
- 六、水族ノ蕃殖及ビ漁場等ニ關スル調査
- 七、其ノ他水産上必要ナル事項

- 第二條 水産試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク  
場長 技師 技手 主事補
- 第三條 場長ハ知事ノ命ヲ承ケ場務ヲ掌理ス
- 第四條 技師、技手ハ場長ノ指揮ヲ承ケ場務ニ從事ス
- 第五條 主事補ハ場長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス
- 第六條 場長ハ主管事務ニ關シ場名若クハ職名ヲ以テ文書ノ往復ヲナス事ヲ得但シ重要事項ニツキテハ知事ノ指揮ヲ承ケ得
- 第七條 場長ハ職員ノ進退及功過ヲ知事ニ具申スルコトヲ得
- 第八條 場長ハ事務處理ノタメ知事ノ認可ヲ受ケ處務細則其他必要ナル規程ヲ設クル事ヲ得
- 第九條 左ノ事項ハ場長ニ於テ專行シタル後之レヲ知事ニ報告スヘシ  
一、職員ノ事務分擔ニ關スル事（其都度報告）  
二、所屬職員ノ管内出張ニ關スル事（翌月十日迄）  
三、助手、小使、水夫、火夫、漁夫、常備夫等ノ命免ニ關スル事（毎月十日迄）  
四、職員ノ病氣、忌引及除服、出仕等ニ關スル事（毎月十日迄）  
五、試験、成績及臨時報告書ヲ編纂發行スル事（其ノ都度報告）
- 第十條 職員ノ出張用務ニシテ重要ノモノト認メタルトキハ場長ハ知事ニ其ノ復命要旨ヲ報告スヘシ
- 第十一條 場長ハ毎年度ノ初メニ於テ其ノ年度ニ試験スヘキ事業計畫を知事ニ開申スヘシ

第十二條 場長ハ毎年五月十日迄ニ前年度ノ業務功程ヲ知事ニ報告ス可シ  
附則  
本令ハ大正十一年四月一日ヨリ施行ス

四、職員  
一、本場創立以來職員ノ異動左ノ如シ  
場長（技師）

氏名	任命年月日	退職年月日	在任年月	摘	要
菟野 芝芽男	大正十一年三月三十一日	大正十三年七月四日	二年四月	大正十一年六月二十六日商工課長ヲ命セラレ場長兼務トナル	
牧野 謙二	大正十三年七月四日	在職	一年六月（場長） 九年六月（技師）	大正十三年十二月廿六日商工課長兼務トナル	

氏名	分掌務	任命年月日	退職年月日	在任年月	摘	要
牧野 謙二	養殖	大正十二年七月十八日	大正十三年七月四日	二年九月（技師）	場長ニ任命	
本田 光吉	漁撈	同 十四年三月廿八日	昭和二年十一月十一日	二年九月（技師）	神奈川縣水産試驗場三崎分場長ニ轉任	
柳川 和民	同	昭和三年一月十一日	在職	五年九月（技師）		
田村 松太郎	養殖	昭和八年五月二十日	同	八年二月（技師） 九年二月（技師）		

氏名	分職	任命年月日	退職年月日	在任年月	摘	要
柳川和民	漁撈	大正十一年三月卅一日	昭和三年一月十一日	五年九ヶ月	技師ニ任命	
中村安治	製鹽	同	同	十年四ヶ月	大正十四年四月兼務ヨリ本務トナ	
金子光吉	漁撈	同	大正十四年五月廿一日	三年一ヶ月	依願退職	
本田光次	製鹽	同	同	二年	技師ニ任命	
井澤潤次	同	同	同	十一年	依願退職	
田村松太郎	同	同	昭和八年五月二十日	九年二ヶ月	技師ニ任命	
河内吾郎	製鹽	同	在職	八年五ヶ月	依願退職	
大庭重行	漁撈	昭和三年二月三日	昭和八年三月卅一日	五年二ヶ月	依願退職	
土井久之	養殖	同	在職	二年七ヶ月	縣商工水産課勤務、本場兼務	
山田光治	同	同	同	一年二ヶ月		
川上雅之	同	同	同	六年		
寺井正雄	漁撈	同	同	四年		

主事補

氏名	任命年月日	退職年月日	在任年月	摘	要
藤田熊夫	大正十一年三月三十一日	大正十三年三月八日	二年	死亡	
國近洋	同 十三年二月二十二日	在職	九年十一月		

氏名	分職	任命年月日	退職年月日	在任年月	摘	要
森下靜夫	船長	大正十一年三月卅一日	大正十一年十二月廿七日	八ヶ月	依願退職	

二、現在職員ノ事務分掌ハ左ノ如シ

岩下徳太郎	機關士	大正十一年三月卅一日	在職	十一年九ヶ月	
本田光吉	船長	同 十二年十二月廿七日	大正十二年三月卅一日	五年ケヶ月	技師ニ任命
村上順一	同	同 十二年五月廿三日	在職	十年八ヶ月	
竹田順一	水夫長	同 十五年九月三十日	同	七年四ヶ月	昭和三年三月卅一日縣吏員トナル

勤務場所	職名	事務分掌	氏名
本場	地方長兼技師	一級	牧野謙二
同	農林技師(兼務)	養殖	土井久之
同	農林技師	漁撈	國近洋
同	農林技師	漁撈	柳川和民
同	農林技師	漁撈	河内吾郎
同	農林技師	漁撈	寺井正雄
同	農林技師	漁撈	村上順一
同	農林技師	漁撈	岩下徳太郎
同	農林技師	漁撈	竹田順一
同	農林技師	漁撈	田村松太郎
同	農林技師	漁撈	川上雅之
同	農林技師	漁撈	山田光治
草津支場	地方長兼技師	一級	牧野謙二
同	農林技師(兼務)	養殖	土井久之
同	農林技師	漁撈	國近洋
同	農林技師	漁撈	柳川和民
同	農林技師	漁撈	河内吾郎
同	農林技師	漁撈	寺井正雄
同	農林技師	漁撈	村上順一
同	農林技師	漁撈	岩下徳太郎
同	農林技師	漁撈	竹田順一
同	農林技師	漁撈	田村松太郎
同	農林技師	漁撈	川上雅之
同	農林技師	漁撈	山田光治

附 雇 傭 員







一、漁撈部

試驗調查事業名並其ノ項目		施行年度	施行場所	事業概要
1.	鱸舟曳網及揚繰網漁業試驗	大正十一年	全羅南道 英洋 蓋島 金島 珍島 大島 大島	本縣ヨリ朝鮮海ニ出漁移住セル鱸舟曳網漁業ノ新設ニシテ、救濟トシテ、全羅南道ニシテ、海産物ノ調査ニシテ、萬
2.	朝鮮東海岸於テ水産業豫察調査	大正十五年 昭和元年	至自 咸鏡北道 全羅南道	本縣ヨリ朝鮮海ニ出漁移住セル各種漁業ノ救濟トシテ、全羅南道ニシテ、海産物ノ調査ニシテ、萬
3.	朝鮮西海岸及關東州ニ於ケル水産業豫察調査	昭和二年	至自 全羅南道 關東州	本縣ヨリ朝鮮海ニ出漁移住セル各種漁業ノ救濟トシテ、全羅南道ニシテ、海産物ノ調査ニシテ、萬
4.	綠網漁業試驗	昭和二年	至自 慶尚南道 高麗南道 高興郡	本縣ヨリ朝鮮海ニ出漁移住セル各種漁業ノ救濟トシテ、全羅南道ニシテ、海産物ノ調査ニシテ、萬
5.	壺網漁場適地調査	昭和二年	全慶 羅尚南道	本縣ヨリ朝鮮海ニ出漁移住セル各種漁業ノ救濟トシテ、全羅南道ニシテ、海産物ノ調査ニシテ、萬

6.	ぐち鮫鱈網漁業試驗並指導	自昭和三年 至昭和五年	朝鮮西海岸	朝鮮並本縣海産物ノ調査ニシテ、萬
7.	えび鮫鱈網漁業試驗並指導	自昭和三年 至昭和五年	全黃 羅海畿南道	本縣ヨリ朝鮮海ニ出漁移住セル各種漁業ノ救濟トシテ、全羅南道ニシテ、海産物ノ調査ニシテ、萬
8.	にべ延繩漁業試驗	昭和四年	黃 海畿道	本縣ヨリ朝鮮海ニ出漁移住セル各種漁業ノ救濟トシテ、全羅南道ニシテ、海産物ノ調査ニシテ、萬
9.	濟州島ニ於ケル漁業調査	自昭和二年 至昭和五年		本縣ヨリ朝鮮海ニ出漁移住セル各種漁業ノ救濟トシテ、全羅南道ニシテ、海産物ノ調査ニシテ、萬

本縣ニ於テ最モ多數ヲ占ムル重要ナル漁業ニシテ、且比較的無産階級ニ屬スル釣及延繩漁業ノ救濟トシテ、毎年發動漁

備後難、燧洋 定期横断観測	稱町沖合ノ定時観測	七、海洋観測	六、改良小台網漁業試験	五、漁具染料試験	四、ゲンシキ流網漁業試験
	以降繼續	大正十三年	大正十五年	自大正十三年 至昭和三年	自大正十三年 至大正十四年
	沼隈郡稱町		沼隈郡田島 村地先海面	沼隈郡稱町	沼隈郡及 深安郡海面
<p>海中ノ諸現象ト水族ノ去來及漁獲ノ豊凶トノ關係ヲ闡明ナ ラシムル目的ヲ以テ、全國協定ノ方法ニ依リ關係府縣ト連 格ヲ執リ上記ノ通海洋観測ヲ行ヒ、同時ニ縣下ニ於ケル重 要漁村ノ漁況調査ヲナシ、海況ト漁況トノ相關關係ノ究明ニ</p>					

三、壺網漁業試験	二、築磯設置試験	12. 出漁移住者指導	11. 適種漁業調査	10. 業試験、並指導
		自大正十二年 至大正十五年	大正十一年	自大正十一年 至大正十五年
沼隈郡稱町 及田島村海面	安藝郡下海 刈島地先海面	朝鮮全沿海	朝鮮全沿海	全羅南道
<p>船十隻内外ヲ運行シ、延繩及釣漁場トシテ未開發ノ漁場ニ 富メル全羅南道海面殊ニ濟州島ヲ中心トスル漁場ニ於テ本 試驗並指導ヲ行ヒ來リシガ、其成績頗ル良好ニシテ本漁業 ノ有望ナルコトヲ確ムルニ至レリ。</p>				

覽洋ニ於ケル  
臨時 菱形 觀測

昭和七年  
以降繼續

努メツ、アリ。

八、漁業基本調査

漁具調査	自大正十二年 以降繼續	縣下一圓	縣下海面	同	同	同	同	同	同
漁場調査	同	同	同	同	同	同	同	同	同
生物調査	同	同	同	同	同	同	同	同	同
漁村調査	同	同	同	同	同	同	同	同	同

二、製造部

試驗調査事業名並其ノ項目	施行年度	施行場所	事業概要
一、雜魚利用試驗	大正十一年 及大正十三年	安藝郡音戶 町沼隈郡 柄町	從來利用ノ顯ミラレザリシ雜魚ヲ利用シテ調味加工品ニ製スルモノ其ノ生産價値ノ増進ヲ圖ル目的ヲ以テ味打瀬網ノ製造ハ相富ノ製材原料ノ採得、處理、器具、製法等ニ考慮ヲ拂ヒテ
二、海苔佃煮製造試驗	自大正十二年 至昭和元年	柄支場	本縣沿岸ノ處ニ分布シテ海苔佃煮ノ原料ニシテ味打瀬網ノ製造ハ相富ノ製材原料ノ採得、處理、器具、製法等ニ考慮ヲ拂ヒテ
三、海苔製造改良試驗	自大正十二年 至昭和七年	安藝郡音戶 村仁保 草津支場	在來ノ廣島式製造法ニハ改善ヲ要スル事項多シテ味打瀬網ノ製造ハ相富ノ製材原料ノ採得、處理、器具、製法等ニ考慮ヲ拂ヒテ
四、乾燥機試驗	自大正十三年 至昭和五年	柄支場	本縣ニ於ケル重要水産品タル魚乾ノ製造ハ相富ノ製材原料ノ採得、處理、器具、製法等ニ考慮ヲ拂ヒテ

試驗調査事業名並其ノ項目	施行年度	施行場所	事業概要
一、熱風吹込式魚類乾燥機試驗	自大正十三年 至昭和五年	柄支場	本縣ニ於ケル重要水産品タル魚乾ノ製造ハ相富ノ製材原料ノ採得、處理、器具、製法等ニ考慮ヲ拂ヒテ
二、海苔佃煮製造試驗	自大正十二年 至昭和元年	柄支場	本縣沿岸ノ處ニ分布シテ海苔佃煮ノ原料ニシテ味打瀬網ノ製造ハ相富ノ製材原料ノ採得、處理、器具、製法等ニ考慮ヲ拂ヒテ
三、海苔製造改良試驗	自大正十二年 至昭和七年	安藝郡音戶 村仁保 草津支場	在來ノ廣島式製造法ニハ改善ヲ要スル事項多シテ味打瀬網ノ製造ハ相富ノ製材原料ノ採得、處理、器具、製法等ニ考慮ヲ拂ヒテ
四、乾燥機試驗	自大正十三年 至昭和五年	柄支場	本縣ニ於ケル重要水産品タル魚乾ノ製造ハ相富ノ製材原料ノ採得、處理、器具、製法等ニ考慮ヲ拂ヒテ











12. 海底土砂探堀ニ伴フ牡蠣損害調査	11. 尾道港修築ニ伴フ漁業損害調査	10. 廣島港修築ニ伴フ漁業損害調査	9. 海軍用地設定ニ伴フ漁業損害調査	8. 海軍諸實驗ニ依リ漁業ニ及ボス影響調査	7. 軍港境域ノ擴張ニ伴フ漁業損害調査	6. 海面埋立及工作物設置ニ伴フ漁業損害調査	5. 工作物ノ設置ニ伴ヒ海苔養殖場ニ及ボス影響調査	4. 水面埋立ニ伴ヒ漁業ニ及ボス影響調査	3. 海面埋立ニ伴フ漁業損害調査	2. 水利使用發電事業ニ伴フ漁業損害調査	1. 海面埋立ニ伴フ漁業損害調査	
昭和八年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	自昭和五年及至昭和八年	昭和三年	昭和三年	昭和三年	大正十五年	自大正十四年至大正十五年	大正十四年	大正十四年	
丹那地先海面	廣島市仁保町	廣島市海面	吳市阿賀町地先海面	同阿賀町	安藝郡倉橋島村	吳市吉浦町	佐伯郡鹿川	佐伯郡大竹	安藝郡府中	廣島市觀音	可愛川筋	賀茂郡廣村地先海面
水面埋立、水利使用發電事業、其ノ他河海ニ工作物設置等ノ事業ニ依リ、漁場縮少ヲ餘儀ナクセラレ、又ハ漁業操業上ニ惡影響ヲ及ボシ漁業權ノ侵害ヲナス場合ニ於テ、漁業損害補償問題ニ關シ兩當事者間ノ協議整ヘズシテ、本場ニ漁業損害程度ノ調査方ヲ申請シ來リシ上記ノ漁業權侵害ニ依ル漁業損害調査ヲナセシニ、一、二ノモノヲ除キテハ漁業損害補償金算定ノ參考資料ヲ提供シ圓滿協定ノ爲ニ裨補セリ。												

一三、其ノ他一般調査

4. 廢止鹽田利用ニ關スル豫備調査	3. 鮎兒蕃殖保護ニ關スル調査	2. 太田川魚族養殖保護ニ關スル豫備調査	1. 打瀬網漁獲物ノ關スル調査
昭和五年	昭和二年	大正十五年	自大正四年至昭和二年
豐田郡、賀茂郡、沼隈郡	廣島灣		一縣下沿岸
縣下四郡、十四ヶ町村、二十八ヶ處ニ散在セル百二十二町六反歩弱ノ廢止鹽田ニ付養魚場トシテ利用ノ適否ニ付豫備調査ヲ實施セリ。	鮎兒ノ蕃殖保護上有害ナリト認ムベキ漁具、即チ白魚葉、蕃殖保護對策講究上ノ資料ヲ得タリ。	太田川ニ於ケル魚族養殖方策樹立上ノ參考資料ヲラシメムトシテ全川ニ亙ル豫備的調査ヲ實施セリ。	瀬戸内海水産研究會ノ協定ニ依リ、打瀬網漁業ノ禁止制度改正ノ資料ヲラシメムトシテ、打瀬網漁業ノ主要漁獲物タル蝦ノ習性其ノ他ニ關シ調査ヲ行ヒシモ、豫定業務ノ傍ラ實施セシ爲單ニ豫察的調査ニ止リ調査未了ニ終リタリ。

四、水産増殖事業

農林省ヨリ水産増殖獎勵金ノ交付ヲ受ケ、縣下水産業ノ現状ニ鑑ミ最モ緊要適切ナリト思料セララル、左ニ記載セル増殖事業ヲ實施シ、疲弊困憊ノ極ニ適セムトシツノアル漁農山村ノ不況打開策ノ一助ヲラシメムトシテ計畫セル事業ニシテ、本事業ニ附隨セシメテ關聯セル基礎的事項ノ試驗ヲモ併セ行ハムトス。

事業名	施行年度	施行場所	概要
一、真牡蠣種苗養成配給	昭和七年以降	廣島市草津町、佐伯郡五日市町	優良ナル真牡蠣種苗ノ養成ヲナシ、縣ノ内外ヲ問ハズ廣クナリトス。
二、海鼠増殖	昭和七年以降	一縣下沿岸	漸次生産減少ノ傾向ヲ示セル海鼠生産ノ維持増進ニ資セムトシテ、縣内各處ニ順次海鼠ノ増殖適地ヲ求め、投石法ニ依ル増殖施設ノ範ヲ示サムトシテ計畫セル事業ナリトス。

三、鮑ノ移殖放養	以昭和七年續	一縣下沿岸	縣内ニハ局部的ニ他ノ増殖ニ好適セル個所存在スルヲ以テ、順次所ル地域ニ他ノ増殖ニ好適セル事業ナリトス。
四、海羅増殖	以昭和八年續	一縣下沿岸	海羅ノ増殖的増殖ヲ圖ル目的ヲ以テ、縣内各地ニ存在セルト、モル増殖的増殖ヲ求メ、順次ニ依ル増殖施設ノ範ヲ示サムトシテ、本事業ヲ計畫セルモノナリトス。
五、海産稚鮎放並小流鮎	以昭和七年續	太田川水系	廣島灣附近ニ於テ、河ノ見込少キ海産稚鮎ノ採捕ヲナシ、之ヲ太田川上流ニ移殖放流ヲナスノ傾向ヲ示セル小鮎ヲモシテ、積流ヲナシ、逐年漁獲高減少ノ傾向ヲ示セル事業ナリトス。

五、講習會

講習會名	開催年度	開催期日	開催場所	講習生員數	備考
教員水産講習會	大正十三年度	自七月二十六日 至七月三十日	安藝郡香戸町 高須小學校	六二	
	昭和五年度	自八月五日 至八月十一日	草津支場	二二	
	同六年度	自七月三十一日 至八月六日	草津支場	二六	
	同七年度	自七月二十六日 至七月三十一日	草津支場	二七	
	同八年度	自七月二十五日 至七月二十八日	草津支場	三九	
船舶職員養成講習會	大正十三年度	自二月二十日 至二月二十九日	新支場	五二	横關士養成
	同十四年度	自二月二十一日 至三月一日	川尻町役場	六三	
昭和五年度	自十一月十五日 至十二月十六日	新支場	四八	同	

其ノ他

水産製造講習會(四回)、水産料理講習會(一回)ヲ本場主催ニテ開催セシ外各種ノ講習會及巡回講話會ニ本場ヨリ講師ヲ派遣セシコトハ數回ニ及ベリ。

二、昭和八年度施行豫定業務

部別	種別	事業	概要	施行場所	施行期間
漁撈部	縣外漁業試験調査	本場漁業指導船銀丸ヲ朝鮮海ニ派遣シ、縣下ニ於ケル主要ナル釣漁村ヨリ撰抜連行セル動力付漁船數隻ト連絡ヲ執リ、各種ノ延縄及釣漁業ニ關スル調査、試験、指導ヲナシ、其ノ傍ヲ隨時ニ必要ニ應ジ其ノ他ノ適種漁業ノ調査、試験並ニ本縣ヨリ朝鮮海ニ出漁移住セル者ノ誘致保護指導ノ任ニ當ラシメテ、漁場ノ探險擴張ト事業經營ノ合理化ヲ圖リ縣外漁業ノ改善發達ニ資セムトス。	朝鮮全羅南道及慶尙南道海面	自五月至十月	
	縣内漁業試験調査並指導	動力付漁船利用漁業試験指導、漁場調査、人工漁礁設置ノ適地調査指導、以テ縣内漁業ノ改善發達ニ資セムトス。漁具調査及漁具材料試験等ヲ施行シ、網多喜濱、四坂島、新間ノ定期海洋觀測、網沖ノ定時觀測並隨時燧洋ニ於ケル燧形觀測及縣下沿岸ノ燧洋ノ定期海洋觀測ヲ豫察資料トシ、重要漁村ニ於ケル漁況ヲ調査シ、以テ海況ノ變遷ニ伴フ漁況ノ豫察資料トシ、重要漁村ニ於ケル漁況ヲ調査シ、以テ海況ノ變遷ニ伴フ漁況ノ豫察資料トシ、重要漁村ニ於ケル漁況ヲ調査シ、以テ海況ノ變遷ニ伴フ漁況ノ豫察資料トス。	縣下一圓	周年	
製煉部	乾燥機試驗	一、般製造業者各戸ニ普及セシムルニ最モ適當ナル簡易乾燥室ノ考案ヲ主眼トシテ、他方面ニハ昭和七年度ニ於テ單獨乾燥機ノ利用ヲ促進シ、縣下漁村十ヶ所ニ乾燥機ヲ交付シテ設置セシメ、乾燥機ノ利用ノ指導ヲ行ヒ、以テ水産乾製品ノ乾燥ニ關シ、乾燥機利用ノ普及ヲ圖ラムトス。	新支場	周年隨時	
	水産製品試驗	煮乾鮎、乾燥其ノ他水産乾製品ノ脂肪酸化防止シ貯藏中ニ於ケル外觀及食味ス。惡變ヲ防止スル目的ヲ以テ脱脂方法並脱脂劑ノ適否ニツキ研究ヲ行ハントス。	新支場	周年隨時	
造化部	水産製品試驗	一、牡蠣水産製造試驗、牡蠣ノ利用法研究ノ爲本試驗研究ヲ行ハムトス。	廣島支場	周年隨時	



附  
錄

廣島縣水産業ノ概要

## 廣島縣水産業ノ概要

### 一、概 說

本縣海面ハ備後灘、安藝灘及廣島灣ノ三海區ヨリ成リ、其ノ廣袤約百二十五方里、海岸線ハ陸地側七十三里七、島嶼部百七十三里五ニシテ、其ノ全延長二百四十七里餘ニ及ビ、沿海百有餘ノ漁村ハ農村ト相俟ツテ、本縣ニ於ケル地方自治体ノ重要ナル根柢ヲナセリ。而シテ水産業ノ健全ナル發達ガ漁村ノ盛衰消長ト至大ナル關係ヲ有スルコトハ、恰モ農業ノ農村ニ於ケルトモモ其ノ理法ヲ異ニスルモノニアラズ。然ルニ縣下水産業ノ既往ヲ通觀スルニ、年ニ依リテ消長起伏アリシト雖、明治三十年頃ヨリ大正五年ニ至ル二十ヶ年間ハ四、五百萬圓ノ生産ニ過ギサリシモノガ、歐州戰亂中ニ於ケル時局經濟界ノ好況ニ伴ヒ、大正六年ヨリ著シク其ノ生産額ヲ増加シ、大正八年ニハ壹千五百萬圓ヲ突發シ、僅々三ヶ年間ニ其ノ生産額ヲ約三倍ニ増加シ、其ノ後ニ於テモ昭和五年迄ハ常ニ壹千四、五百萬圓ノ生産額ヲ維持シ來リシモ、其ノ内容ヲ檢討スルニ、本縣水産業ノ主体ヲナシ、漁村ノ産業經濟ニ最モ密接ナル關係ヲ有スル沿岸漁獲高ハ、其ノ性質上年ニ依リ豊凶ハアリシト雖、大体ニ於テ大正八年ヲ最高トシテ漸次減少ノ傾向ヲ示シ、又沿岸漁業ニ亞イテ漁村ノ産業經濟ニ影響ヲ及ボスコト多キ水産製造高モ、主トシテ都市ニ於テ行ハル、削鹽節及竹輪、蒲鉾等ヲ除キ、縣内漁獲物ヲ原料トシ漁村ニ於テ行ハル、水産製造物ノ重要ナルモノハ其ノ生産額漸減ノ傾向アリ、其ノ他漁村ノ産業經濟ニ密接ノ關係ヲ有スル遠洋漁業及水産養殖業ハ、本縣水産業ノ狀態ニ鑑ミ、從來縣ニ於テ保護助長ノ策ヲ執リ、積極的ニ指導獎勵ノ施設ヲ講ジ來リシ爲、累年發展ノ趨勢ニアリト雖、近年ニ至リ時局ノ影響ヲ蒙リテ、魚價及生産物ノ價格ガ著シク低下スルニ至リシ爲、其ノ生産高ニ於テハ餘リ増加ヲ見ザル狀態ニアリ。然ルニ之ニ反シ漁村ノ産業經濟ニハ比較的影響ヲ及ボスコト少キ削鹽節ノ生産高ガ著シク増加セルト、製鹽高ガ多少増加セシ爲、昭和五年迄ハ水産總生産高ニ於テ著シキ増減ヲ見ザリシモ、昭和六年以後ニ於ケル内外經濟界ノ異常ナル不況ニ際會シ、魚價及生産物ノ價格ガ一層暴落スルニ至リシ爲、各種水産物ノ生産高ヲ激減スルニ至リ、延イテハ漁家一戸當ノ收入ヲモ著シク減少スルニ至リシ爲、漁村ニ於ケル産業經濟ヲ疲弊困憊ニ陥ラシムルニ至リタルハ洵ニ遺憾トスル所ナリ。

水産業者戸数並人口累年比較

年次	水産業者		戸数	
	副業計	本業計	副業計	本業計
自大正五年至大正五年平均	二六、八八六	二二、六六一	一六、二〇五	七、四四五
自大正五年至大正六年平均	二八、八八六	二二、六六一	一六、二〇五	七、四四五
自大正六年至昭和二年平均	三〇、三三三	二二、一〇七	一八、〇三五	六、八三六
自大正六年至昭和三年平均	三〇、三三三	二二、一〇七	一八、〇三五	六、八三六
自大正六年至昭和四年平均	三〇、三三三	二二、一〇七	一八、〇三五	六、八三六
自大正六年至昭和五年平均	三〇、三三三	二二、一〇七	一八、〇三五	六、八三六
自大正六年至昭和六年平均	三〇、三三三	二二、一〇七	一八、〇三五	六、八三六
昭和七年	三六、二〇一	二二、七三三	二二、三六八	一〇、九九九

漁撈、養殖、製造業者別人人口累年比較

年次	漁撈		養殖	
	業者計	被用者計	業者計	被用者計
自大正五年至大正五年平均	一五、九六三	一、〇三四	二、四八三	二、七八七
自大正五年至大正六年平均	一五、九六三	一、〇三四	二、四八三	二、七八七
自大正六年至昭和二年平均	一五、五六〇	一、二五五	一、九六六	一、九六六
自大正六年至昭和三年平均	一五、五六〇	一、二五五	一、九六六	一、九六六
自大正六年至昭和四年平均	一五、五六〇	一、二五五	一、九六六	一、九六六
自大正六年至昭和五年平均	一五、五六〇	一、二五五	一、九六六	一、九六六
自大正六年至昭和六年平均	一五、五六〇	一、二五五	一、九六六	一、九六六
昭和七年	一三、〇一九	一、〇九七	四、〇〇五	四、〇〇五

漁船數累年比較

種別	動力		人力		合計
	五噸以上	五噸未満	五噸以上	五噸未満	
自大正五年至大正五年平均	一〇、七九四	三、八九	一一、八八三	一	一二、一八七
自大正五年至大正六年平均	九、七三九	二、三三	九、九六〇	二	九、九八五
自大正六年至昭和二年平均	一〇、七三九	一、七七一	一〇、九一〇	二	一一、〇四〇
自大正六年至昭和三年平均	一〇、七三九	一、七七一	一〇、九一〇	二	一一、〇四〇
自大正六年至昭和四年平均	一〇、七三九	一、七七一	一〇、九一〇	二	一一、〇四〇
自大正六年至昭和五年平均	一〇、七三九	一、七七一	一〇、九一〇	二	一一、〇四〇
自大正六年至昭和六年平均	一〇、七三九	一、七七一	一〇、九一〇	二	一一、〇四〇
昭和七年	九、八五一	三、一六	一〇、一八四	一	一〇、一八五

郡市別漁船數 (昭和七年度)

郡市別	動力未滿五噸		動力五噸以上		合計
	有	無	有	無	
安藝	1,736	1	1,336	400	3,072
佐伯	1,327	1	884	16	2,228
賀茂	493	1	14	5	513
豐田	1,295	1	1,533	5	2,834
御調	1,501	1	95	3	1,599
沼隈	1,908	1	226	3	2,138
深安	1,919	1	171	2	2,093
廣島	1,633	1	30	1	1,665
吳	397	1	23	1	422
尾道	322	1	8	1	332
福山	36	1	6	1	44
其ノ他ノ郡	359	1	35	1	396
合計	9,822	11	8,921	91	11,854

水産生産額累年比較

種別	自大正五年平均		自大正六年平均		自大正十一年平均		自昭和二年平均		昭和七年
	五ヶ年	平均	五ヶ年	平均	五ヶ年	平均	五ヶ年	平均	
漁獲高	1,209,336	4,815,883	1,080,935	4,069,414	1,070,924	4,364,844	1,335,621	4,840,853	5,890,853
沿岸漁獲高	1,209,336	4,815,883	1,080,935	4,069,414	1,070,924	4,364,844	1,335,621	4,840,853	5,890,853
遠洋漁業漁獲高	4,815,883	1,080,935	4,069,414	1,070,924	4,364,844	1,335,621	4,840,853	5,890,853	5,890,853

一、沿岸漁業

備考	水産物總生産高	製鹽		製水産物		合計
		生産高	高	生産高	高	
大正元年ヨリ同十年ニ至ル年次ノ沿岸漁獲高ノ調査ニハ水産養殖高ヲモ包含セシメテ調査セシモノナルヲ以テ統計ニ現ハレ居リシ沿岸漁獲高ヨリ水産養殖高ヲ控除シテ平均漁獲高ヲ計算セリ、自昭和二年至昭和六年五ヶ年平均欄ノ制鹽節生産高ハ自昭和二年至昭和五年四ヶ年平均生産高ヲ掲記セリ。	4,799,637	11,235,040	1,000,000	1,000,000	2,000,000	11,235,040
	4,799,637	11,235,040	1,000,000	1,000,000	2,000,000	11,235,040

本縣沿岸漁業ノ趨勢ハ、明治三十年頃ヨリ大正五年ニ至ル間ノ約二十ヶ年間ハ年ニ依リ多少ノ消長起伏アリシト雖、常ニ貳百萬圓内外ヲ上下シ、魚獲數量ニ於テモ亦著シキ増減ヲ示サマリシガ、大正六年ヨリ急激ニ増加ノ趨勢ヲ示シ、大正八年ニ至リテハ六百拾八萬圓餘(當時ノ漁獲高ヨリ養殖高ヲ除外セルモノ)ニ増加シ、本縣ニ於ケル沿岸漁獲高ノ最高ヲ示シ、其ノ後大正十年迄ハ五百六拾萬圓以上ノ漁獲高ヲ算シ、本縣ニ於ケル空前ノ盛況ヲ呈セリ。之レ時局經濟界ノ好況ニ伴ヒ、魚價ノ騰貴セルコトニ依ル所多カリシハ勿論ナルモ、又一面ニ於テ漁具、漁法ノ改善進歩ニ依リ、漁獲數量ヲ増加セシコトモ統計ニ依リ







州	鮮 沿 海									
	計	其 他	雜 網	打 瀬 網	鯛 釣	鯛 網	鯖 巾 着 網	鱈 巾 着 網	鱈 船 曳 網	計
關	漁船 獲高 數	漁船 獲高 數	漁船 獲高 數	漁船 獲高 數	漁船 獲高 數	漁船 獲高 數	漁船 獲高 數	漁船 獲高 數	漁船 獲高 數	漁船 獲高 數
東	三、一、八、一、八	一、三、一、一、一	—	—	—	—	—	—	—	—
州	二、五、一、一、一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	五、四、九、二、九	一、三、一、一、一	—	—	—	—	—	—	—	—
關	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
州	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

### 三、河川漁業

本縣ニ於ケル河川ノ多クハ其ノ源ヲ中國山脈ニ發シ、其ノ南流シテ瀬戸内海ニ注クモノニ太田川、蘆田川、沼田川、木野川、黒瀬川等ノ諸川アリ、東條川及帝釋川ハ合流シ高梁川トナリ岡山縣ニ入りテ海ニ注グ。北流スルモノニ可愛川（江ノ川）アリ島根縣ニ入りテ日本海ニ注グ。本縣ニ於ケル河川ノ延長ハ頗ル長ク、主要ナル河川ノミニテモ實ニ四百四十有餘里ノ延長ヲ有シ、此流域ニ棲息スル主ナル魚族ハ鮎、鰻、鯉、鮒、鱒、やまべ（ひらめ）、いわな、はや、うぐひ（いだ）、ぎゅう、なます、しろうを、いな等ニシテ、往時ニアリテハ相當ノ漁獲高アリシト云フモ、近年ニ至リ漁業者ノ増加並漁具漁法ノ改良發達ニ伴ヒ濫獲酷漁ノ弊ニ陥リシト、他面ニハ文化ノ發達ニ伴ヒ水利使用發電事業ノ勃興並諸工業ノ發達等ニ伴ヒ、魚族ノ蕃殖ニ悪影響ヲ及ボスルニ至リシ爲漁獲高減少ノ傾向ヲ示シ、就中河川漁業ノ首位ヲ占メ最モ重要漁業ナル鮎ノ漁獲高ニ付最近二十ヶ年間ニ於ケル消長盛衰ノ狀況ヲ調査スルニ

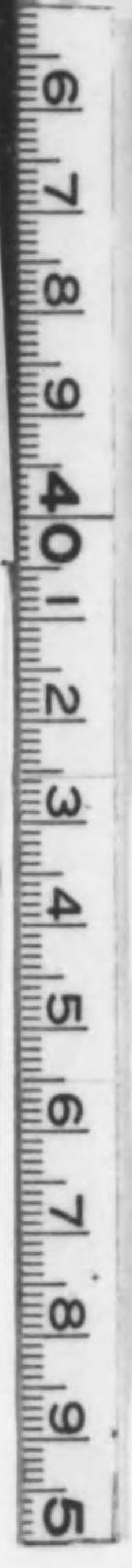
年	漁獲高		量		金		高	
	船獲高	船獲高	獲高	獲高	獲高	獲高	獲高	獲高
自大正元年	—	—	—	—	—	—	—	—
自大正六年	—	—	—	—	—	—	—	—
自大正十一年	—	—	—	—	—	—	—	—
自昭和二年	—	—	—	—	—	—	—	—
至昭和六年	—	—	—	—	—	—	—	—
至昭和七年	—	—	—	—	—	—	—	—
平均	—	—	—	—	—	—	—	—

漁獲數量ハ自大正六年至大正十年五ヶ年平均ガ最高ヲ示シ、爾來年々減少ノ途ヲ辿リツ、アリ。而シテ縣下全河川ニ於ケル最近五ヶ年間ノ漁獲數量ハ五萬貫内外ニ過ギサルモ、適種魚族ニ對シテ増殖施設ヲ講ズレバ今日ノ生産高ヲシテ數倍以上ニ増加セシムルコトハ敢テ至難ノ問題ニアラザルヲ以テ、縣ニ於テハ夙ニ此點ニ着眼シ、河川魚族ノ増殖ニ關スル試驗調査ヲ實施スルト共ニ之ガ指導獎勵ニ任ジツ、アリシ爲、縣下ニ於ケル二大河川ニシテ且水産上最重要ナル可愛川水系ノ増殖施設トシテハ本縣水産會ニテ經營ノ可愛川養魚場ニ於テ昭和三年度ヨリ鯉兒及鱒兒ノ放流事業ヲ行ヒ相當ノ効果ヲ擧ゲツ、アリ、又太田川ニ於ケル増殖施設トシテハ昭和六年二月ニ設立セル太田川水産會ニ於テ本縣水産會ト共同シテ全年ヨリ鮎人工孵化放流事業ヲ繼續施行中ナリシガ、又本年四月ニハ太田川漁業組合ヲ設立シ、全川ニ於ケル鮎、鱒、鯉漁業ニ對スル専用漁業權ヲ出願シ、前記魚族ノ増殖事業實施ノ計畫ヲ進メツ、アリ。

最近五ヶ年間水系別漁獲高調査表

河川名	昭和二年		同三年		同四年		同五年		同六年		平均	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
太田川	七六、五七二	一、〇八八、二八四	三九、〇四六	一、四七、〇三三	一六、七九〇	八、一九〇、〇二四	一五、一〇五	七三、六三四	一三、三八一	四三、八九五	一、〇一、七九	一、二二、四七
可愛川	三三、〇六一	六、七、九八九	一三、七一四	四、四、四三三	三三、三三八	八、七、七六六	二二、七六七	五、六、五七八	二四、一〇一	五、六、七二八	一〇、九七四	六、九、〇〇〇
沼田川	六八八	二、三三四	八、八八七	三、二、八〇七	五、六六七	一、五、四三二	七、三三八	一、六、四八四	七、五七七	一、七、二八三	六、六六八	一、四、六六八
高梁川	七〇〇、二七〇	八、五九一	二、四九四	一、二、三〇七	二、〇九八	八、七、四四四	一、二、六二六	六、四、四三三	一、二、三三三	四、二、八二二	二、〇〇二	八、〇〇三
木野川	七九三	三、三三四	五、七七八	二、一、五二二	三三八	一、四、四六九	四八六	一、六、四二二	五五五	二、四、九〇九	五、〇〇〇	一、一、九二九
黒瀬川	七八八	一、〇〇三	七三六	八、九三	六一七	九〇四	八七三	一、〇〇一	九八三	一、三、六一	七九九	一、一、九二九
計	一、〇〇、五七四	一、七、七、七三三	一、〇〇、九一五	三、三、三、三三三	九、六、九七	一、九、七、八八八	一、八、八八五	一、五、九、八八	一、〇一、一、四〇	一、五、五、五五	一、〇一、一、四〇	一、五、五、五五

年	従						計					
	二年	三年	四年	五年	六年	平均	二年	三年	四年	五年	六年	平均
數量	三三	二二	五五	六一	五五	三三	三三	二二	五五	六一	五五	三三
金額	一、〇〇	二、二六	一、〇〇	九三	九三	一、〇〇	一、〇〇	二、二六	一、〇〇	九三	九三	一、〇〇
數量	一、〇〇	二、二六	一、〇〇	九三	九三	一、〇〇	一、〇〇	二、二六	一、〇〇	九三	九三	一、〇〇
金額	一、〇〇	二、二六	一、〇〇	九三	九三	一、〇〇	一、〇〇	二、二六	一、〇〇	九三	九三	一、〇〇
數量	一、〇〇	二、二六	一、〇〇	九三	九三	一、〇〇	一、〇〇	二、二六	一、〇〇	九三	九三	一、〇〇
金額	一、〇〇	二、二六	一、〇〇	九三	九三	一、〇〇	一、〇〇	二、二六	一、〇〇	九三	九三	一、〇〇
數量	一、〇〇	二、二六	一、〇〇	九三	九三	一、〇〇	一、〇〇	二、二六	一、〇〇	九三	九三	一、〇〇
金額	一、〇〇	二、二六	一、〇〇	九三	九三	一、〇〇	一、〇〇	二、二六	一、〇〇	九三	九三	一、〇〇



最近五ヶ年間水系別漁業者数調

河川別	本						業						遊						漁						計					
	二年	三年	四年	五年	六年	計	二年	三年	四年	五年	六年	計	二年	三年	四年	五年	六年	計	二年	三年	四年	五年	六年	計	二年	三年	四年	五年	六年	計
高梁川	11	10	11	12	13	57	12	13	14	15	16	60	17	18	19	20	21	85	22	23	24	25	26	100	11	10	11	12	13	57
廣田川	12	11	12	13	14	62	13	14	15	16	17	65	18	19	20	21	22	80	23	24	25	26	27	105	12	11	12	13	14	62
沼田川	13	12	13	14	15	67	14	15	16	17	18	70	19	20	21	22	23	85	24	25	26	27	28	110	13	12	13	14	15	67
太東川	14	13	14	15	16	72	15	16	17	18	19	75	20	21	22	23	24	90	25	26	27	28	29	115	14	13	14	15	16	72
木野川	15	14	15	16	17	77	16	17	18	19	20	80	21	22	23	24	25	95	26	27	28	29	30	120	15	14	15	16	17	77
可愛川	16	15	16	17	18	82	17	18	19	20	21	85	22	23	24	25	26	100	27	28	29	30	31	125	16	15	16	17	18	82
計	117	107	117	127	137	508	127	137	147	157	167	618	177	187	197	207	217	778	227	237	247	257	267	1028	117	107	117	127	137	508

最近五ヶ年間魚種別漁獲高調査表

種別	昭和二年		三年		四年		五年		六年		平均
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
あゆ	三六、八九八	一、三四、六六三	一五、九六一	八六、九三三	一九、五六七	一〇六、九五五	一六、二五七	七〇、五三四	一六、四七九	五九、五六八	一九、〇三三
しま	五、二一九	四、七四九	二、五二七	二、三〇、一七〇	一、五九八	一、四四二	八、九九〇	一、四七三	一、〇九八	六、二五七	一、二〇一
しら	四六、七五三	三、九三〇	三、七〇〇	三、一六〇	二、五〇〇	九、四五〇	一、八七〇	九、一七〇	九石一斗	五、〇〇〇	八、二七三
うなぎ	五、五四〇	三〇、九九九	六、八四〇	三、四八四	五、七二八	三、三九四	五、六八九	三、〇三三	五、六七五	一、七六六	五、九九三
いな	五、六七五	一五、八六九	七、六三四	三〇、五五八	三、〇五〇	七、四五〇	四、八五〇	一〇、七〇五	四、九〇〇	一〇、一五〇	五、三三三
はな	五、一一〇	七、四三三	六、二〇九	二、二六八	七、三三六	二、四二九	七、一三三	一〇、九二九	六、八二五	九、一四七	六、五〇〇
こひ	一九、三九五	八、七八八	一、五二八	六、二七五	一、〇一〇	七、〇九三	一、九一三	六、三〇三	二、〇七七	六、三三八	一、八四六
うぎ	二、九九五	四、九二四	二、八六五	六、八五三	一、七六五	三、五七七	一、七三〇	三、四三八	一、一三三	一、八四九	二、〇九三
ふぎ	一、一一三	三、一六六	一、〇三八	一、〇八八	二、三三六	四、一六六	二、二七三	三、三三三	一、二〇二	二、七二二	一、六九二
なま	八、八六六	一、三三七	三、五三三	六、五〇〇	一、〇九二	一、七五五	一、一五一	一、五九七	一、〇六四	二、二七二	一、五四五
なま	四、四九九	七、九六九	六、四九九	二、二〇七	六、四四四	一、〇六四	六、五七七	一、〇三〇	五、三二六	一、〇三三	五、八五五
やま	二、五二一	七、九八八	八、九四四	三、六九五	一、六六六	六、四〇〇	一、一五二	四、六四四	二、九〇〇	二、九〇〇	一、三三四
其	一、八五三	二、五二七	六、一八七	八、四七八	四、三五六	五、九五五	五、三九八	六、九七九	七、八九〇	九、二六三	五、〇〇七
計	一〇、五七四	二、九、六二七	三、七、〇〇〇	三、三、六九三	四、九、六七九	一、九、七八八	四、八、四三三	一、五、九、八二八	四、九、〇五〇	二、三、〇、五二九	四、〇、〇、九

三、水産養殖業

廣島灣ニ於ケル牡蠣、海苔等ノ干瀉利用養殖業ハ、遠ク三百數十年ノ昔ヨリ創業セラレ、本邦ニ於ケル斯業ノ先鞭ヲ付ケテ果年發達ノ趨勢ニアリシモ、從來斯業ノ經營ガ比較的一部地方ニ限定セラレ居リシ爲、明治三十年頃ヨリ大正五年ニ至ル二十ヶ年間ノ養殖生産高ハ貳拾萬圓内外ヲ上下シ居リシガ、大正六年ヨリ急激ニ増加ノ傾向ヲ示シ、大正九年ニ至リテハ百萬圓ヲ突破スルニ至レリ、之レ時局經濟界ノ好況ニ伴ヒ生産物ノ價格ガ騰貴セルコトニ依ル所多カリシハ勿論ナルモ、又一面ニハ養殖場區域ノ擴張及面積ノ増加並養殖法ノ改善等ニ依リ、生産數量ヲ増加スルニ至リシコトモ明カナル事實ナリトス。

大正五年ニ實施セル生産調査ノ結果、縣内ニ於ケル水産生産高ノ増加ハ淺海及内水面利用養殖業ノ發展ニ期待スル所多キニ着眼シ、大正七年ヨリ新ニ養殖擔任ノ技術員ヲ設置シテ斯業ノ指導ニ任ゼシメシガ、大正十一年四月水産試験場ヲ設置シ、翌十二年草津支場ヲ設置スルヤ、専ラ全支場ヲシテ養殖ニ關スル試験調査指導ヲ行ハシメ、昭和四年ヨリハ縣ニ於テ水産増殖獎勵規程ヲ制定シ、獎勵金ヲ交付シテ淺海増殖業ノ普及發達ニ努ムルニ至リ、又本縣水産會ニ於テハ昭和三年五月雙三郡河内村ニ可愛川養魚場ヲ設置シ、淡水魚養殖ノ模範經營並種苗ノ配給ヲ行ヒ、以テ内水面利用養殖業ノ普及ニ力ヲ盡スニ至リシ結果、本縣ニ於ケル水産養殖業ハ累年發達ノ趨勢ヲ示スニ至リシモ、經濟界不況ノ影響ヲ蒙リテ生産物ノ價格ガ著シク低落スルニ至リシ爲、生産高ハ著シキ増減ヲ示サズシテ百萬圓以上ヲ維持シツ、アル現狀ニアリ。

然ルニ本縣水産養殖業ノ將來ヲ考察スルニ、縣下海面ニ於ケル淺海及干瀉ハ貝藻類ノ養殖ニ適シ、所謂農耕的養殖適地頗ル多ク、又陸上ニハ河川、池沼等養魚ニ利用シ得ベキ場所ハ極メテ多キニ拘ハラズ、廣島灣ニ於ケル牡蠣、海苔及鯛養殖ヲ除キテハ極メテ不振ノ狀態ニアルヲ以テ、未利用地ニ適種養殖業ノ獎勵ヲナスト共ニ在來養殖業ノ改善ヲ圖リ、以テ斯業ノ發展ヲ策スルコトハ縣外出漁ノ獎勵ト共ニ本縣水産生産高ノ増加ヲ圖ル上ニ最モ緊要ナル事項ナリトス。

重要水産養殖累年比較

魚種	年度	面積				
		五至五年平均	五至十年平均	五至十一年平均	五至昭和六年平均	昭和七年
魚	五至五年平均	四三、六九九	五三、五七三	四四、九七九	五三、一五二	六五、七七七
魚	五至五年平均	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇

魚種	年度	金額				
		五至五年平均	五至十年平均	五至十一年平均	五至昭和六年平均	昭和七年
鯉	五至五年平均	七〇、五	〇〇、三	二、五	七、六	一、〇
鰻	五至五年平均	二、二	三、七	七、七	一〇、一	一、二
鱈	五至五年平均	三、〇	三、一	三、一	三、一	三、一
牡蠣	五至五年平均	八、七、七、七	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一
鯛	五至五年平均	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一
紫菜	五至五年平均	三、七、七、七	三、七、七、七	三、七、七、七	三、七、七、七	三、七、七、七
其他	五至五年平均	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一
合計	五至五年平均	一、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇

金額 二六、七三 七六、〇四〇 五二、七五五 一、一四〇、八八六 一、一四〇、九八六

四、水産製造業

本縣ニ於ケル水産製造業ノ趨勢ハ、沿岸漁業ニ於ケル場合ト同様ニ、明治三十年以降大正五年ニ至ル二十年間ハ常ニ百萬圓ヲ上下シ、著シキ増減ヲ示サマリシガ、大正七年ヨリ急激ニ増加シ、大正八年ニ至リテハ參百萬圓ヲ突破シ、爾來累年増加シテ五百萬圓ヲ上下スルニ至レリ、之レ製品價格ノ騰貴ニ依ル所多カリシハ勿論ナルモ、又一面ニハ大正十一年以降ニ於テ、運輸交通機關ノ發達ニ伴ヒ、低廉ナル原料ノ移入ニ便ナルニ至リシ爲、縣外ヨリ原料ヲ移入スル竹輪、蒲鉾並削鯉節製造業ノ著シク發達セルコトニ起因スルモノニシテ、縣内ニ於テ漁獲セル原料ヲ使用シ、主トシテ漁村ニ於テ行ハル、煮乾鰯及煮乾蝦等ノ重要水産製品ノ生産數量方寧ロ年々減少ノ傾向ヲ示セルハ漁村ニ於ケル産業經營上洵ニ憂フベキ現象ナリトス、然レドモ縣内ニ於ケル漁獲物ヲ原料トスル煮乾鰯、漉海苔及煮乾蝦ハ何レモ加工又ハ製造セザルベカラザルモノニシテ、且其ノ製品ハ輸出又ハ移出品ナルヲ以テ、之ガ製造法ノ改良ヲ圖ルト共ニ製品検査ヲ勵行シ、品質ノ統一ト向上トヲ圖リ以テ販路ノ擴張ヲ圖ルコトハ刻下ノ急務ナリトス。

重要水産製造累年比較

魚種	年度		自大正五年至大正十年平均		自大正十一年至昭和二年平均		昭和七年
	金額	數量	金額	數量	金額	數量	
春黑鰯煮乾	八四九、三三七	八、〇五五	一、一五五、〇五六	四、四九三	一、〇四〇、八八八	四、四九三	三三九、〇一九
玉筋魚煮乾	五八、〇五五	—	—	—	二九、七三三	—	三三九、〇一九
蝦煮乾	三三、五四五	—	四六、四四九	—	三六、六六七	—	三三九、〇一九
	五九、三九九	—	一、二二一、二七七	—	一六八、五八八	—	三三九、〇一九

蒲鉾及竹輪	年度		自大正五年至大正十年平均		自大正十一年至昭和二年平均		昭和七年
	金額	數量	金額	數量	金額	數量	
蒲鉾	—	—	—	—	—	—	—
竹輪	—	—	—	—	—	—	—
漉海苔	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—
削鯉節	—	—	—	—	—	—	—
水産物雜詰	—	—	—	—	—	—	—

五、製鹽業

本縣ニ於ケル製鹽業ハ遠ク二百七、八十年前ヨリ創業セラレタルモノナルモ、縣下沿岸ハ潮汐ノ干満ノ差大ニシテ、且降雨量尠キ爲、製鹽業ヲ營ムニハ絶好ノ天恵ニ浴シ、長年月ノ間ニ漸次發達セルモノニシテ、明治三十年以降大正五年ニ至ル二十年間ハ其ノ生産高百萬圓内外ニ過ギザリシモノガ、大正七年ヨリ急激ニ増加シ、大正九年ニハ參百貳拾八萬圓ヲ算スルニ至リシモ、之ガ主ナル原因ハ價格ノ騰貴ニ依ル所大ナリトス。然ルニ本業ハ其ノ性質上天候ニ左右セラレ、コト多キ爲、爾來年ニ依リ増減アリシモ、昭和五年迄ハ常ニ參百萬圓ヲ上下シ居リシニ、昭和七年ニ至リテ百八拾萬圓台ニ激減スルニ至リシモ、之ハ主トシテ價格ノ低落セルト、昭和六年度ニ於テ百二十二町六反歩ノ鹽田ヲ整理セラル、ニ至リシ爲、生産數量ノ減少セルニ依ルモノナリトス。

製鹽業累年比較



種別年度	製造戸數		從業人員		鹽田反別數		窯數		製造數量		價格
	數	別	數	別	數	別	數	別	數	別	
自大正元年 至大正五年 平均年	101	1	583	3	33	3	33	3	1,070,730	1,070,730	1,070,730
自大正六年 至大正十年 平均年	101	1	583	3	33	3	33	3	1,177,101	1,177,101	1,177,101
自大正十一年 至昭和元年 平均年	101	1	583	3	33	3	33	3	1,070,730	1,070,730	1,070,730
自昭和二年 至昭和六年 平均年	101	1	583	3	33	3	33	3	1,177,101	1,177,101	1,177,101
昭和七年	101	1	583	3	33	3	33	3	1,177,101	1,177,101	1,177,101

### 六、水産業ニ對スル獎勵補助ノ施設

本縣ニ於ケル水産業ノ獎勵施設トシテハ、縣下水産業ノ狀態ト朝鮮海漁業ノ有望ナルニ着眼シ、明治三十一年度ヨリ遠洋漁業獎勵費ヲ計上シテ朝鮮海出漁ヲ獎勵セシガ、明治三十三年ニ至リ水産試驗場ヲ設置スルヤ、遠洋漁業獎勵費ノ交付ヲ一時中止シ、漁業指導船ヲ朝鮮海ニ派シテ、試驗調査並出漁者ノ誘掖保護指導ニ任ゼシメタル結果、朝鮮海漁業ノ有望ナルコトヲ確認スルニ至レルヲ以テ、之ガ積極的助長ノ策ヲ講ズル爲、明治四十四年ニ至リ朝鮮海出漁獎勵規程ヲ制定シテ、五艘ヲ以テ一團體ヲ組織シ五ヶ月以上朝鮮海ニ出漁スル者ニ對シ獎勵金交付ノ途ヲ開キシガ、大正四年ニ至リ從來朝鮮海ニ限定セル區域ヲ、關東州、露領沿海州及膠州灣方面ニ擴張シ、更ニ大正五年ニハ出漁獎勵ノ範圍ヲ一層擴張シテ、團體出漁ノミナラズ單獨出漁ニ對シテモ獎勵金ヲ交付スルト共ニ、他面ニハ愛知型打網漁船ノ建造ヲ獎勵スル爲、從來ノ朝鮮海出漁獎勵規程ヲ廢止シ、新ニ漁業獎勵規程ヲ制定シ、爾來大正十三年ニ至ル間本獎勵規程ニ依リテ、縣下水産業ノ進展ヲ企圖セシガ、時代ノ進運ニ適應セル漁業獎勵ノ方針ニ變更スルノ要アルヲ認メ、大正十三年十二月ニ至リ漁業獎勵規程ヲ改正シ、出漁獎勵金ハ原則トシテ機關付漁船ヲ以テ瀬戸内海以外ノ海面ニ於テ四ヶ月以上漁業ニ從事スル者ニ交付シ、漁船獎勵金ハ沖合漁業ニ從事スル目的ヲ以テ、總噸數十噸未滿ノ機關付漁船ヲ新造スル者ニ交付シ、以テ外海漁業ノ助長發達ニ努メシ結果、何レモ相當ノ効果ヲ擧グル

ニ至レルヲ以テ、沖合漁業ニ從事スル機關付漁船ノ建造獎勵ハ單獨縣費時局匡救事業ニ譲リ、又外海漁業ノ獎勵ハ大正七年度ヨリ開始セル朝鮮海移住漁業ノ獎勵ト、從來縣及水産試驗場ニテ實施シツ、アリシ漁業指導船ノ業務ニ譲リ、漁業獎勵規程ハ昭和六年度限りニテ之ヲ廢止セリ。

前記ノ如ク本縣ニ於テハ水産業ニ對スル獎勵施設トシテ、縣外出漁就中朝鮮海ノ出漁移住ノ獎勵ニ努メ來リシガ、他面縣下沿岸ニ於ケル漁業狀勢ヲ考察スルニ、近年ニ至リ漁獲高漸減ノ傾向ヲ示シ、漁業者ノ生計ハ年ト共ニ苦シク、疲弊困憊ノ甚ダシキ漁村ノ救済振興策ノ一方策トシテ、縣下沿岸ニ散在セル廣大ナル淺海干潟ノ利用獎勵ハ緊要適切ナル事項ナリト認メ、昭和四年十月水産増殖獎勵規程ヲ制定シ、淺海及干潟利用増殖業ノ獎勵ヲ開始シ、又本縣ニ於ケル干潟利用養殖業ノ大宗ヲナセル牡蠣養殖業ノ改善發達並當業者ノ福利増進ヲ圖ル目的ヲ以テ、昭和六年十月ニ廣島市及安藝郡、佐伯郡ノ一市二郡ノ地區トシテ設立セル廣島縣養殖水産組合ノ事業ニ對シテモ、昭和七年度ヨリ助成金交付ノ途ヲ開キテ今日ニ及ベリ。

又別項ニ記載セル水産關係團體ハ、何レモ其ノ定款及規程ノ定ムル所ニ依リ、各其ノ機能ヲ發揮シ、水産業ノ改良發達、水産業共同ノ利益増進及漁村ノ振興ニ努メツ、アリト雖、他ノ各種産業團體ニ比シ概ネ基礎薄弱ニシテ、未ダ充分ニ其ノ機能ヲ發揮スルコト能ハザル實情ニアルモ、縣下斯業ノ現況ハ之等團體ノ活動ヲ要スル事項多キヲ以テ、之等水産關係團體ニ對シテモ補助金ヲ交付シ、其ノ機能ヲ充分ニ發揮セシムルコトニ努メ、以テ斯業ノ改善發達ニ資セシメツ、アリ。

### 七、水産關係團體

#### 一、廣島縣水産會並郡市水産會

明治十九年農商務省令ヲ以テ定メラレタル漁業組合準則ニ準據シ、翌二十年ニ廣島縣ヲ一圓トスル廣島縣漁業組合ヲ創立シ、事務所ヲ廣島市水主町ニ置キ、縣下海面ヲ下浦、上浦、大芝、豊浦、芽刈、深沼ノ六漁區ニ分チ、各漁區ニ支部ヲ置キテ斯業ノ發展ヲ企圖セシガ、明治二十八年ニ至リ本組合ヲ解散シ、各支部ヲ獨立セシメ六ヶ漁業組合ヲ創立セシモ、各漁業組合共萎微トシテ振ハズ自然消滅ノ形トナリタルモノサハアリシ位ナリ。然ルニ降テ明治三十八年ニ至リ、縣下一圓ノ漁業者ヲ網羅セル廣島縣水産會ヲ組織シ、年々縣費補助金ノ交付ヲ受ケ會務ノ執行ヲ繼續シ來リシガ、明治四十二年以後ニ於テハ殆ンド有名

無實ノ状態トナリ居リシヲ以テ、大正四年ニ至リ漁業法ニ基キ廣島縣水産組合ヲ組織シ、水産業ニ關スル各種ノ指導、獎勵、其ノ他共同施設事業ヲ施行シ相當活動スルニ至リシモ、偶々大正十年六月水産會法ノ施行ヲ見ルニ至リシ結果、全年中ニ沼隈、御調、賀茂、安藝、佐伯、豊田、深安郡ニ、水産業ノ改良發達ヲ目的トスル水産會ガ設立セラレ、續イテ大正十年十二月二十七日廣島縣水産會ノ設立ヲ見ルニ至リシモノニシテ、其ノ後廣島、尾道、吳市水産會並太田川水産會ガ設立セラレ、夫レ夫レ其ノ機能ヲ發揮シ、縣下水産業ノ改良發達ニ貢獻シツ、アリ。

1. 廣島縣水産會事業概況

大正十年本會設立以來實施シ來リシ主ナル事業ハ、朝鮮ニ於ケル移住漁村ノ經營、淡水魚増殖事業（可愛川養魚場ニテ經營ノ鯉兒放流及配付、鰻、食用蛙、金魚ノ養殖、鮎及鮪ノ人工孵化放流等）淺海利用増殖事業（嚴島及能美島ニ於ケル垂下式養蠶ノ模範經營、牡蠣種苗ノ養成配付、三原灣ニ於ケル海苔、牡蠣、蛤、蜆養殖ノ模範經營等）及築磯設置等ノ事業ヲ行フ外、漁村振興ニ關スル講習、講話會ノ開催、視察員ノ派遣、郡市水産會補助、遭難救済、遺族救済、漁業免許出願事務等ニシテ、昭和八年度ニ於ケル總經費並各種事業別經費ハ左ノ如シ。

總經費	金四萬貳千四百七拾貳圓
內 事業費	金參萬參千五百五拾九圓
事業種目	金額
朝鮮移住漁村事業	八、二五三圓
淡水魚増殖事業	六、一九一圓
淺海利用増殖事業	二、四一四圓
會報發行費	二五〇圓
漁村振興講習講話費	一五〇圓
視察費	三〇〇圓
獎勵費	五〇〇圓

調在費	三〇〇圓
協議會(郡市水産會長及事務打合せ)費	一七〇圓
補助金	一、〇〇〇圓
救済事業費	一、四一〇圓
出願事務事業費	一、〇二一圓
築磯設置費	一、二〇〇圓

2. 郡市水産會事業概要

郡市水産會	經費	事業	概要
廣島市水産會	五、五九八圓	水産業調査獎勵、販賣方法改善、技術員設置、水産業指導、視察表彰、講話、仲介斡旋、魚介宣傳品評會開催	
吳市水産會	一、七四一圓	技術員設置、講習講話、研究、視察獎勵、乾燥場設備、垂下式養蠶、魚食宣傳、調査指導	
尾道市水産會	九〇〇圓	講習講話、水産獎勵、漁村統計、經濟調査、仲介斡旋、集談會、品評會、出漁調査	
安藝郡水産會	一、〇七二圓	講習會、共同施設補助、貝類移殖、遭難救済調査、視察獎勵、水産會集談會、魚價通信	
佐伯郡水産會	二、〇五五圓	漁業獎勵、海羅、海風増殖、船舶職員講習、鯉漁業海況調査、品評會、集談會、調査技術員設置	
賀茂郡水産會	一、〇九一圓	講習講話、水産業改良獎勵、養殖漁業調査、視察	
豊田郡水産會	一、六五七圓	漁村振興、講演會、漁民就學獎勵、遭難慰問表彰、視察	
御調郡水産會	二、〇九〇圓	遭難救済、弔慰、出漁、漁業獎勵、講習講話、技術員設置	
福山市水産會	七九三圓	講習講話、研究會、救済費、視察費、組合補助、淺海利用、増殖	
深安郡水産會	一、〇五八圓	鮎及鯉ノ増殖、鮎ノ稚魚捕獲状況調査、河川統計調査	
太田川水産會	二、二九二圓	牡蠣増殖試験、海況状況調査(松水灣)、船舶職員講習事業獎勵	

二、廣島縣漁業組合聯合會

縣下漁業組合ノ相互聯絡協調ヲ圖リ、本縣水産業ノ進展並漁村ノ振興ヲ期スル爲、大正四年本縣水産組合ヲ設立セル當時ヨリ毎年一回漁業組合理事協議會ヲ開催シ、縣下水産業ニ關スル重要問題ノ協議、時事問題ノ講究、組合理務ノ打合等ヲナシ、之ガ實行ヲ期シテ本縣水産界ノ爲貢獻セシ所尠カラザリシモ、大正十三年十一月本縣水産會主催ニテ開催セル漁業組合理事協議會ニ於テ、漁村ノ中心團體タル漁業組合ヲ構成分子トシテ團體ヲ組織シ、之ニ依リ共同施設事業ノ實施、漁業組合ノ相互聯絡協調、漁業組合共同施設事業ノ助成、漁業組合ノ指導誘掖並眞ノ漁業者ノ輿論トシテノ建議請願ヲナス目的ヲ以テ本聯合會ヲ組織スルコトニ決定シ、大正十五年一月二十九日創立委員會ヲ開キテ成規ノ手續ヲナシ、全年七月二十七日設立ノ認可ヲ得、事務所ヲ縣廳内ニ置キテ業務ヲ開始スルニ至レルモノニシテ、本聯合會ノ概況ハ別紙漁業組合狀況ノ一覽表ニ示ス如シ。

本聯合會ノ主ナル事業ハ共同販賣事業ニシテ、昭和二年十二月尾道市ニ販賣所ヲ設置シ、生魚貝類、水産製造加工品、釣魚用餌虫等ノ共同販賣事業ヲ開始セシニ、其ノ成績ノ概要ハ別表ニ示ス通ニシテ、特別會計トシテノ本事業ノ成績ハ良好ナリトハ稱シ難キモ、本事業ノ實施ニ依リテ、漁業者ガ從來中間業者ノ爲ニ壟斷セラレツ、アリシ利益ヲ擁護シ、又ハ魚價ノ向上ニ資シ、或ハ仕切金ノ即時支拂並歩戻金制度ヲ確立セシ等加入組合ニ於ケル組合員ノ利益増進ニ資セシコトハ多大ナルモノアリ。

尙昭和八年度ニ於ケル本聯合會ノ總經費七五、一八六圓、事業費七〇、六五〇圓ニシテ、廣島市ニモ販賣所ヲ設置シ、七月二十日ヨリ漁獲物ノ共同販賣事業ヲ開始スルニ至レリ。

廣島縣漁業組合聯合會尾道販賣所ニ於ケル事業成績一覽表

年次	取扱高	利用人員	經費	手数料	備考
昭和二年	八七、七〇〇	一三〇人	一、〇六、〇〇〇	六、五〇〇	十二月十七日開始經費ニハ創立費ヲ含ム
同三年	一、三三、〇〇〇	一、〇〇〇	六、六、一〇〇	五、三三、〇〇〇	
同四年	六、六、一〇〇	一、〇〇一	七、七、七、〇〇	〇、〇、〇、〇〇	
同五年	一〇一、四〇、〇〇〇	一、六、六、〇〇	一、一〇、三、七〇〇	七、〇、七、〇〇	
同六年	九三、三、〇〇〇	一、七、七、〇〇	九、〇、九、〇〇	七、〇、〇、〇〇	
同七年	九六、三、〇〇〇	一、八、八、〇〇	九、六、三、〇〇	七、〇、〇、〇〇	

三、漁業組合

明治三十五年舊漁業法ガ施行セラル、ニ至リシ爲、縣下ニ於ケル漁村浦ハ相競フテ漁業組合ヲ設立シ、其ノ數百三十六ヲ算スルニ至リシガ、明治四十三年ニ至リ漁業法ガ改正セラレ、漁業組合ノ機能ヲ擴張シ、漁業權ノ享有及行使以外ニ、組合員ノ漁業ニ關スル共同施設ヲナスヲ目的トスルニ至リタレバ、本縣ニ於テハ明治四十四年漁業組合及同聯合會事務取扱規則ヲ制定シ、一般事務ノ刷新統一ヲ圖ルト共ニ、漁業組合本來ノ目的ヲ達成セシムル樣指導監督ヲナシ、他面ニハ基礎ノ鞏固ナル組合ヲ設立セシムル爲、小組合ノ合併ヲ促シタル結果、現在ニテハ百〇八組合ニ併合セララル、ニ至レリ。

而シテ昭和六年度ニ於ケル漁業組合ノ狀況ヲ見ルニ、組合員總數一三、六八五人、經費總額二二〇、五七九圓九五錢、積立金一七一、一八四圓七八錢ニシテ、負債額三七、一六一圓八一錢ナルモ、右負債額ハ何レモ共同施設事業資金ニ充當セルモノニシテ有効ニ利用セラレツ、アリト雖、共同施設事業ヲ實施シツ、アル組合ハ其ノ數僅ニ十四ニシテ、其ノ事業種類ハ共同販賣九、共同購買二、漁業資金貸付五、共同貯金四ニシテ、遭難救恤事業實施ノ爲之ガ積立金ヲナシ居ル組合ハ多數アレドモ、其ノ額ハ何レモ僅少ナルモノニシテ、之ヲ他ノ産業團體ニ比スレバ極メテ不振ノ状態ニアリ。

然ルニ、今ヤ内外經濟界未嘗有ノ不況時ニ際會シ、漁村ノ疲弊困憊ハ殆ンド其ノ極ニ達セムトシツ、アル今日、漁村ノ更生ニ努ムルコトハ刻下緊急ノ要務タルニ鑑ミ、政府ニ於テハ漁村ノ中心團體タル漁業組合ノ機能ヲ擴充シ、眞ニ漁村經濟ノ中樞機關トシテ機能ヲ發揮セシムルニ遺憾ナカラシムル爲、漁業法ノ改正ヲ行ヒ、新ニ漁業組合ニ出資制度ヲ認ムルト共ニ、産業經濟ニ關スル諸般ノ施設ヲ行ハシムルコトニナリ、右改正法律ハ漁業組合令其ノ他ノ改正ト相俟ツテ實施ノ運トナレルモ、本縣ニテハ昭和七年度ニ於ケル單獨縣費ノ匡救事業トシテ、漁業組合ニ對シ經濟的施設ヲナサシムベク經費六萬六千八百餘圓ヲ支出シ、共同運搬船ノ建造三十一艘、共同蓄養設備二十三ヶ所、水産物共同乾燥場設備七ヶ所ヲ設置セシメタル結果、目下經濟施設ヲナシツ、アル四五ヶ漁業組合ニ對シ、改正法規ニ基キ漁業協同組合又ハ責任制度ノ組合ニ組織ヲ變更セシメ、其ノ他ノ

六四ヶ漁業組合ニ對シテハ向後五ヶ年間ニ整理統一ヲ圖ルト共ニ其ノ組織ノ變更ヲ促シ、以テ漁業經濟更正ノ爲適切ナル産業經濟ニ關スル施設ヲ行ハシメムトス。

漁業組合狀況 (昭和六年度)

郡市名	組合數	員數	組合費	積立金		負債額	共同施設事業
				基金	其ノ他		
安藝	一	1,000	11,385,380	10,100,000	1,285,380	共同貯蓄金	貸付金高
佐伯	三	2,775	11,771,111	10,577,770	1,193,341	共同貯蓄金	貸付金高
賀茂	八	2,150	1,488,880	6,265,280	3,396,400	共同貯蓄金	貸付金高
豐田	二	1,210	11,101,220	7,000,000	4,101,220	共同貯蓄金	貸付金高
御調	二	1,010	5,966,660	3,877,770	2,088,890	共同貯蓄金	取投金高
深安	六	2,220	11,171,010	8,000,000	3,171,010	共同貯蓄金	取投金高
廣島	二	1,010	5,966,660	10,000,000	4,033,340	共同貯蓄金	取投金高
吳山	三	1,210	7,771,110	1,200,000	6,571,110	共同貯蓄金	取投金高
尾道	一	1,000	1,191,110	1,100,000	91,110	共同貯蓄金	取投金高
計	100	11,665,000	110,000,000	80,800,000	29,200,000	共同貯蓄金	取投金高

昭和八年度ヨリ開始豫定ノ共同施設事業

廣島縣漁業組合會	九	11,000,000	6,666,666	3,333,333	9,666,666	共同販賣	(一ヶ所)	取投高	九三,三三三,三三三
計	100	110,000,000	110,000,000	80,800,000	29,200,000	共同販賣	(九ヶ所)	支出高	110,000,000

四、廣島鰻網漁業組合

明治四十二年ニ至リ朝鮮ニ於ケル漁業令ガ發布セラル、ヤ、各縣競フテ漁權ノ設定ニ全力ヲ傾注スルノ時ニ際シ、本縣ヨリ朝鮮海ニ出漁シ居リシ鰻網漁業者ハ朝鮮海通漁組合ヲ組織シ、鎮海灣ニ二百有餘件ノ鰻網漁場ノ漁業權ヲ獲得セリ。其ノ後數年ニシテ組織ヲ社團法人ニ更メ、其ノ名稱ヲ朝鮮海鰻網漁業組合ト改稱シ、指導監督員ヲ置キ之ガ保護助長ニ任ジタリ、斯クノ如クニシテ漸次出漁者ハ其ノ數ヲ増加スルト共ニ漸ク漁場ノ狹隘ヲ感ジタルト、其ノ經營上ニ主トシテ經濟的改革ヲ加フルノ必要ヲ痛感スルニ至リシヲ以テ、漁業ノ基礎ヲ確立シ本漁業ノ發達ヲ企圖スル爲、大正八年十月法令ニ依ル廣島鰻網漁業組合ヲ設立シ、事務所ヲ統營ニ置キ、組合員ハ彼ノ地ニ移住シ各自ノ享有スル漁業權ヲ統一シテ組合有トシ、之ヲ擔保トシ朝鮮殖産銀行ヨリ資金貳拾五萬圓ノ融通ヲ受ケ、翌大正九年度ヨリ資金貸付、共同販賣、共同購買、共同貯蓄、救恤等ノ各種共同施設事業ヲ開始シ今日ニ至レリ。

種別	郡別	安藝	佐伯	賀茂	豐田	御調	沼隈	深安	廣島	吳山	尾道	計
共同運搬	八組合	四組合	三組合	五組合	四組合	四組合	四組合	一組合	一組合	一組合	一組合	二九組合
共同蓄養	六組合	一組合	二組合	五組合	四組合	四組合	四組合	一組合	一組合	一組合	一組合	二〇組合
共同乾燥	四組合	一組合	一組合	一組合	二組合	二組合	二組合	一組合	一組合	一組合	一組合	七組合

廣島鰺網漁業組合同事業概要

本組合ニテ施行セル最近五ヶ年間ノ共同施設事業ノ概要ヲ表示スレバ左ノ如シ。

事業年度	昭和元年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年
共同販賣	九二五、七二五	九四六、九〇〇	九六九、一三〇	一、〇三二、六六七	五五三、三七五
共同購買	一六四、二九一	一六三、〇九〇	一一〇、七四三	一一八、九〇四	八七、三九三
資金貸付	五二九、八七二	五三二、一三六	五四二、一三九	四三三、三二六	四五九、二九五
共同運搬	二八、七六四	三〇、六七四	二八、八〇〇	二四、一二三	一七、二四九

五、廣島縣養蠶水産組合

本縣ニ於ケル養蠶業ハ、東京灣ニ於テ産出セラル、所謂淺草海苔ト共ニ、本邦ニ於ケル淺海干潟利用養殖業ノ双璧ニシテ、沿革ノ古キコト、生産高ノ多キテト及品質優良ニシテ味ノ優レタル點ニ於テ全國ニ冠タリト雖、現下ニ於ケル内外經濟界未曾有ノ不況ト、近年ニ至リ我國ニ於テ創業セラレタル垂下式養蠶ノ勃興ニ依ル著シキ生産ノ増加トニ依リ、賣行不良ニシテ且價格ノ低落セル爲蒙ル損害ハ莫大ニシテ、事業經營上頗ル苦境ニ陥レルヲ以テ、廣島牡蠣ノ堅價ヲ維持シ、其ノ業体ノ安固ヲ期スル爲ニハ弱小ノ力ヲ合セテ合同ノ力ニ依リ、一糸亂レザル結合ノ下ニ事業經營ノ根本的改善振興策ヲ講ズルコトハ最モ緊要ナル事項ナリトス、昭和六年七月本縣水産會主催ノ縣下養蠶業ノ振興發展ニ關スル協議會ニ於テ、廣島縣養蠶水産組合設立ノ議纏リ、成規ノ手續ヲ經テ、昭和六年十月三十日本組合ノ設立ヲ見ルニ至レルモノニシテ、昭和七年度ヨリ本組合ノ主要ナル事業トシテ設付牡蠣及種牡蠣ノ強制検査並身牡蠣ノ任意検査ヲ開始シ、内地向設付牡蠣二一、二九六個、内地向種牡蠣三九八個、身牡蠣二、四六九個ノ検査ヲ行ヘル外、販路ノ擴張宣傳ヲナス目的ヲ以テボスター及パンフレットノ調製配付、重要都市ニ對スル出荷ノ獎勵ヲナス目的ヲ以テ、全國ニ於ケル主要ナル消費市場並各種機關ト連絡ヲ執リテ、出荷ノ獎勵ヲナスト共ニ之ガ斡旋ニ努メタリ、又他面ニハ運賃ノ低下ト輸送方法ノ改善ニ資セムトシテ設付牡蠣輸送機關指定ノ制度ヲ定メ、昭和七

年度ニ於テハ實行委員ヲ設ケテ種々協議折衝ヲ遂ゲタル結果汽船輸送ニ決定シ、輸送機關ヲ大阪商船及尼ヶ崎汽船會社ニ指定シ、運賃ノ低下及輸送方法ノ改善ニ貢獻セルコト多大ナルモノアリタリ。  
尙昭和八年度ニ於ケル本組合ノ總經費一九、五七八圓、事業費一八、四五八圓ニシテ、主ナル事業ハ生産品ノ検査、講習講話會ノ開催、販路ノ擴張宣傳、害敵驅除、出荷獎勵、共同處理作業場ノ設置等ナリトス。

六、廣島海苔水産組合

海苔養殖及製造業ノ改良發達ヲ圖ル目的ヲ以テ、大正七年十二月廣島市及安藝郡仁保村及佐伯郡草津町ヲ地區トスル廣島縣海苔業組合ヲ組織シ、爾來専ラ製品改善ニ關スル施設ニ力ヲ注ギ、本組合ノ決議ニ依リテ特ニ改善ヲ要スル項目ヲ協議決定シ、之ガ勵行ヲ期スル爲毎年實業教師ヲ招聘シテ製造法改善指導ノ巡回指導ヲナシ、又ハ專任検査員ヲ囑託シテ製品検査ノ勵行ヲ期スルト共ニ、他面ニハ講習講話會ノ開催、部落品評會開催ノ助成及視察員ヲ先進地ニ派遣スル等ノ方法ニ依リ製品ノ改善ヲ圖ルコトニ努メシ結果、相當ノ効果ヲ擧ゲツ、アリシガ、任意組合ニシテ其ノ基礎薄弱ナル爲其ノ目的ヲ達成スル上ニ種々遺憾ノ點アリシヲ以テ、法律ニ基礎ヲ置ク有力ナル組合ニ組織ヲ變更スルノ必要ヲ認メ種々調査研究ノ結果、昭和八年七月漁業法ニ依リ廣島市ヲ地區トシテ廣島海苔水産組合ヲ設立スルニ至リシモノニシテ、昭和八年度ニ於ケル本組合ノ總經費二、九〇三圓、事業費二、二一五圓ニシテ、主ナル事業ハ製品検査、講習講話會ノ開催、生産改良ノ助成、販路擴張及販賣斡旋等ナリトス。

八、水産物ノ販賣機關

本縣ニ於ケル水産物ノ販賣機關トシテハ、本縣魚市場規則ニ依リテ許可セラレタル魚市場三十三ヶ所アリ、其ノ内會社經營ノモノ九、個人經營ノモノ十五、漁業組合經營ノモノ七、市並村經營ノモノ各々一ヶ所アリ。  
然ルニ大正十五年四月本縣魚市場規則制定以前ニハ七十有餘ノ魚市場アリテ、廣島、草津、福山等ニアリテハ三百年以前ヨリ創業セラレ居リ、又其ノ他ノ地方ニアリテモ相當ニ古キ沿革ヲ有シ、何レモ魚問屋ニ依リテ鮮魚ノ卸賣ヲ營ミ來リシモノナル



14.2  
761

終